

楽園の子供達

29

絵と文 森田 三郎

ふかんど

「ふかんど」。子どものころ、ぼく達は、谷津干潟をそう呼んでいた。

今はもう、その言葉は死んでしまったし、使われなくなってしまった。古きも、土地の人も、かつてはみんな、そう呼んでいたし、そう言えば「ああ、谷津のふかんどか」と、すぐわかった。

今の谷津干潟の西半分ぐらいの所がそれで、そこだけが深く、いつも潮がたまっていた。

だから、潮が沖の方まで、数キロも引いて砂が出て、ふかんどのところは泳げた。ふかんどとは「深いところ」という意味で、漢字で書くと「深んど」というのを

大人になって知った。

古き父の話によれば、大正時代の終わり、谷津遊園(今のパークタウン)を海に出張って土地を作る時、すぐ隣の干潟(今の谷津干潟)の砂を掘った。だから、そこだけ深い所ができてしまい、それからはいつの間にか土地の人が、「ふかんど」あるいは「谷津のふかんど」という名がついたという。

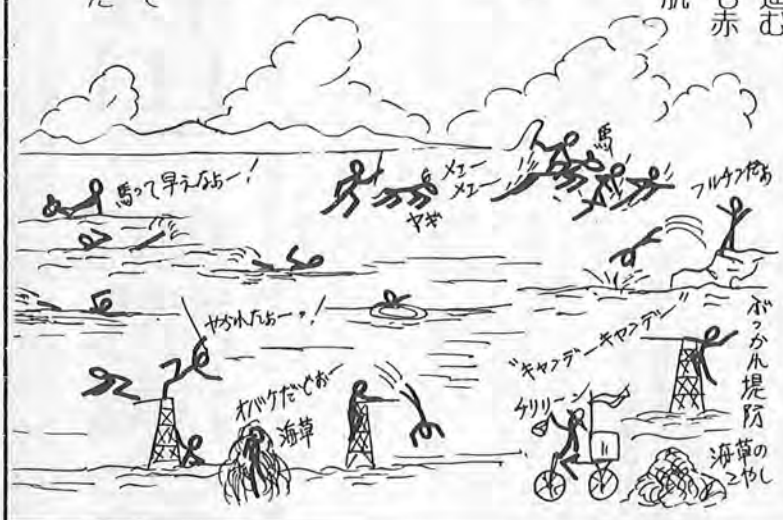
ふかんど……。懐かしい、その言葉と呼び名、その響き。そこに鼻にリンときたきつい潮の香がある。子ども達や大人もみんなのはしゃぐ声がある。ふかふかと夏の太陽で焼けた熱い砂路と砂浜の感触がある。沖に浮かぶ白帆と、青くかすむ房総の山なみと、キラキラ輝く水平線と、むくむくと空

に登り湧く雄大な入道雲がある。

そして広い干潟の、見渡す限りの向こうの方から、見渡す限りの反対の方まで、ゆっくりゆっくりと潮の先端が岸に向かって進む満ち潮がある。フルチンも赤ふんどしや赤銅色の焼け肌も、みんな、いっぱいあったのだ。

「かあちゃん、オシたちい、みんなでふかんど行つてくんねえ」と言つて家を出た。「さぶう、早く帰んだどお、んじゃねえと、海で死んだ人の霊が、淋しがつておめえん」と、来いよ、来いよ、って呼んで海の中あいつ張りこむんだかんなあ」

と、かあちゃん。
「かあちゃんよお、ふんどしい、いつ買ってくれえん？」
かあちゃんの答えはいつも同じだった。
「そんなもんいらねえよ。海ん中あ入ればなあ、すっ裸だつて大いばりだよ」



(この用紙は再生紙を使用しています)

谷津干潟の会

〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044

ふかんど通信

関西大震災
ポランティア被災地で奮戦
 君は神戸に行ったか
 企業は君が欲しい
 「野城病院」の医師たち
 全国の木造二階建て住宅も
 物流は生き物 神戸には残った

1ヵ月 上
ポロントリア
阪神大震災
 テリア 一気に全

修正さのうねり
 神戸市役所には震災
 からボランティア
 活動が
 10月 10日 10日 10日
 8月 10日 10日 10日
 6月 10日 10日 10日
 4月 10日 10日 10日
 2月 10日 10日 10日
 1月 10日 10日 10日

ボランティアの報酬って?

阪神大震災の被災者のかたがたに、心からお見舞いを申し上げます。

ボランティアという言葉が急に目立ちはじめました。ボランティア元年と書いた新聞もありました。皆が少しずつ……とも。

二〇周年になる谷津干潟のゴミ拾いも、ボランティアのひとつです。森田さんには及びませんが、そろそろ十五年になる私にも、とにかく始めてしまうことというボランティアの秘訣には同感します。

いま、一緒にゴミを拾っている仲間の顔を思い浮かべると、いつからやっているのか、はっきりとした記憶がありません。みんな、ある日、やってきて、黙ってゴミを拾い、何回かやっているうちに名前を知り、友達になつていく……。そんな仲間た

ちばかり。リーダーもいなければ、会議もない。ただ、「今日はあそこを片づけようか」で始めて、嫌になつたらやめる。

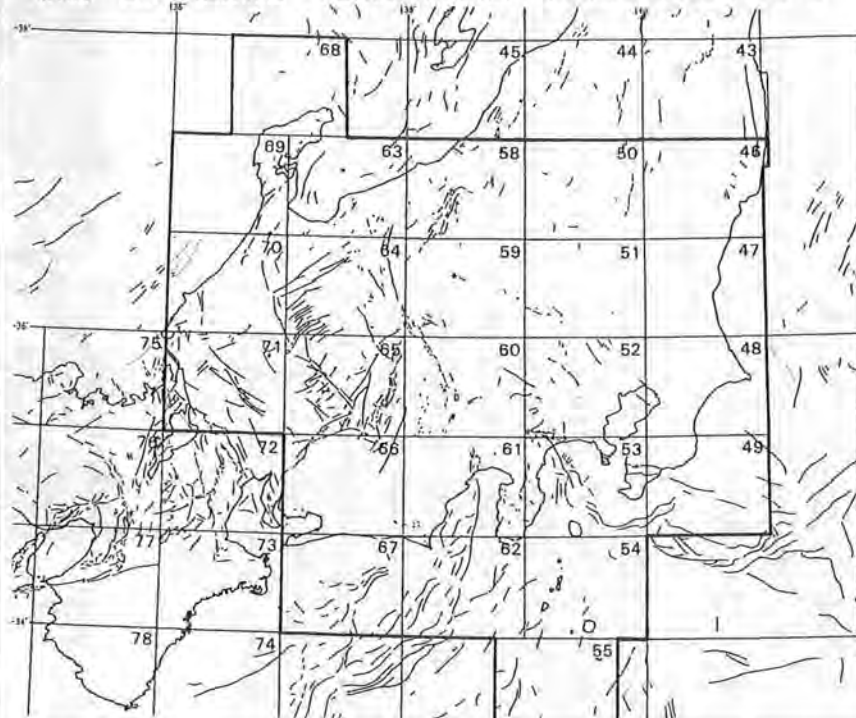
行政にとっては、ボランティアというのは、扱いにくいだろうな、と神戸のお役人には同情しています。自発的意志だけで動こうという人達は、報酬を期待しないから、命令で動かすことができない。

でも、ボランティアが役に立っているのは、事実です。そしてボランティアの種は、どこにでもあつた。

ボランティアには報酬がないことになっています。しかし、報酬はあります。「自己満足」という大きな報酬が。自分が満足すりゃ、それで十分じゃありませんか。私たちも、ぼちぼちやっつけていこう。(長塚)

活断層は日本中にいたるところにあります。また発見されていないものも無数にあるでしょう。右図の○はかつて起こった地震で、数字は発生年月日とマグニチュード。東京湾内でも起こっています。

『新編 日本の活断層』(活断層研究会編 東大出版会1992年)から



大丈夫か? 習志野市

たいへん見にくくて恐縮ですが、上の地図をよく見てください。船橋市という字の左上から千葉市という字の右まで、・・・の線がつながっています。これは、地下に活断層があるのではないかと疑われていることを示す伏在断層のマークです。

市川市から船橋、習志野を通過して千葉市まで、ほぼ国道14号に平行して、昔の海岸線のあたりを走っています。さらに東京湾の中には、浦安市から千葉市の五井にかけて、活断層と推定される線があります。

だからといって、明日、地震が起こるわけではありません。ただ、われわれの街にも、活断層ではないかと疑われるものがあり、いつ地震があっても不思議ではない、ということをはっきり認識しておかなければならないということなのです。

井戸の保存と復旧

活断層という言葉は、今度の阪神大震災で、一躍、有名になりました。左上の日本地図の一部に記された短い線は、活断層の印です。とくに近畿地方に多く、神戸市などは活断層だらけということが分かります。

各地で感動の渦 聴く、見よう 3月12日(日)

森田二郎講演会

先日はお目にかかれて、とても嬉しく思っております。森田さんのお話を聞きながら、忘れていた子供の頃のことを次々と思い出され、胸の中が熱くなっていくのを感じました。小学校五、六年の頃、森田さんのお話が朝日新聞の天声人語に載っていて、「私も!」と思って、近所の空きカンひろいを始めたこと。でも、それも母に叱られて二日しか続かなかったこと。試験期間中、学校から早く帰って来れる日は、一日中、目の前の海岸にとんでいて、さらにさらに光る海をみつめていたこと……。

前号でもお知らせしたように、森田さんの講演が、各地で好評です。そこで谷津干潟愛護研究会を作り、一人でゴミ拾いはじめて二〇周年を迎えたのを機会に、どんなにサバウこと、森田三郎の講演と懇親の会を企画しました。干潟に関心のある方々、たまにはみんな、ちょっと気取ったどろんこサバウの話に耳を傾けてみませんか。ひとりでも多くの方のご参加をお待ちしています。

谷津干潟愛護研究会
谷津干潟環境美化委員会
谷津干潟友の会

日時 一九九五年三月一二日(日)
講演 午後三時三〇分〜四時三〇分
懇親会 四時三〇分〜六時三〇分
場所 ザ・クレストホテル四階
富士東の間(京成津田沼南口)
会費 男性七千円、女性六千円

講演会だけの参加もできます。会場費千円をいただきますが、阪神大震災義援金として寄付させていただきます。
問い合わせ 谷津干潟愛護研究会
☎0474(51)5044

『ふかんど通信』を配って下さるボランティアの方を募集しています(新栄・本久保・藤崎方面)。(51)5044森田までご連絡を!!

発行 谷津干潟友の会
〒275 習志野市谷津 3-29-11-102
Tel 0474-51-5044

ふかんど通信

楽園の子供達

30

絵と文 森田三郎

離れ小島 (一)

離れ小島。

そんな島があった。みんなそう呼んでいた。

今からもう、四〇年以上も昔のこと。離れ小島はみんなの、広い浅瀬の海での目印でもあった。場所はずらばーとの少し先ぐらい。

砂を盛り上げただけの、白い砂の島だった。でも、そこには茶店や便所もあって、アサリとりに行ったり人達の、休み所でもあった。

お金のある人は、そこで休んだり、カキ氷やなんかを喰ったり、お茶やラムネを飲んでいた。おれんちは貧乏だったから、熱くて白い砂地に座るか寝ころがって、いつもうらやましそつに、物欲し

げにポカンと見ていただけ。

「かあちゃんよお、おれんちは……？」

と言ったこともあったけど、

「なにい言ってんだよお。お前わあ」

とが、

「アレはお大尽のすんことでえ、いらねえんだよお。おーもったいねえ」

なんてことばっかり。入って喰ったことはなかった。

いや、入った記憶もつつすらとはあるが、なんにも飲み食いしねえからいちばん隅っこのはしっこで、店の人にわかんねえように、ちよこんと申し訳なさそつに日陰にいた。

「シュボン」と坊ちゃんらし

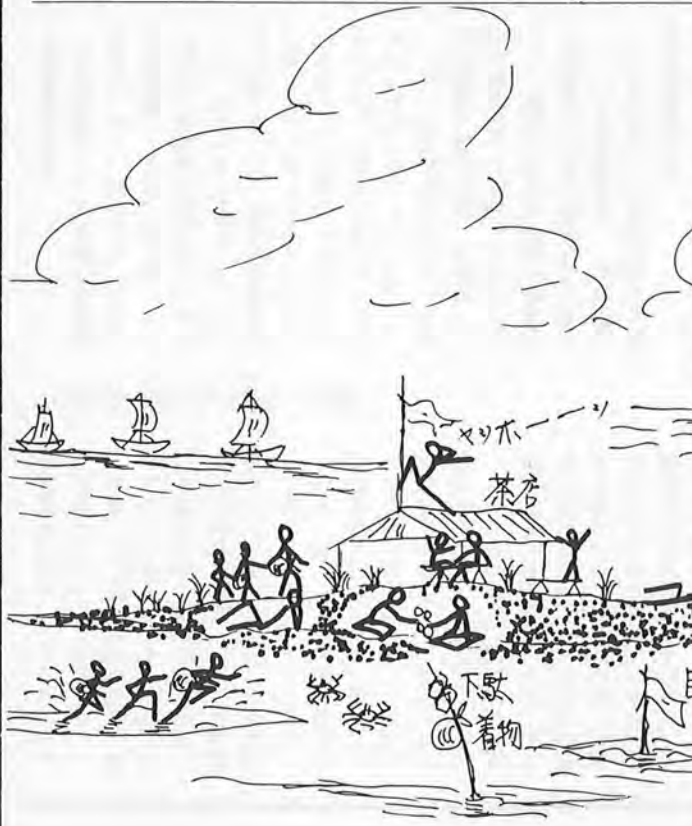
い、いい子みてえな上品そつな子

どもが、ラムネを抜いてテーブルやゴザにこぼすのを見て、おれはそのこぼれたやつに口をおっつけて飲みたかった。

そんな時、ふつとかあちゃんを見る、子ども心にも、手拭いを

かぶったかあちゃんの、ほつれた髪の毛が潮風にゆれているのを見て、ちよつと憎らしかったけど、弱くてさみしそつで、かわいそつな気がした。「かあちゃん新聞配達うしてんだあ。んでアサリとつて、おれんちのおつけにすんだもんな……」

なんて、沖の白帆を見るときもな



干潟のコミミズク

「このネズミを手に載せて、立ってみな。おもしろいから」と森田さんが言って、車のライトを消した。暗くな

ハツカネズミはなくなっていた。コミミズクは枯れた草原に、冬になるとシベリアなどから渡ってくる渡り鳥だ。かつては暮張から谷津干潟周辺

の埋め立て地に、たくさんいた。三〇軒くらいはあるけつこう大きな鳥なのだが、昼間枯れた草のそばにじっとしている、とても見つけるのがむずかしい。指さして「ほら、そこにいるじゃないか」といわれても、しばらく分からぬいほどだ。

この写真は、もう一〇年以上も前のもの。今は谷津干潟自然観察センターがたつて、きれいに整備されてしまった草原で、森田さんが撮った。一匹五〇円の実験用ハツカネズミを買ってき

て、毎日、杭に足を縛って、餌付けした。しまいには、森田さんが来るのを待っているようになって、写真をとることもできるようになった。コミミズクが飛び立っているポストは、そのころ、谷津干潟を残すために少しでも多くの人の声を集めようと、森田さんが干潟の流木を集めて作ったものだ。ときどき入っている子どもの手紙にどんなに力づけられたことか。ああいう何もない空き地がほしい。何もない空き地って、今の世の中でいちばんぜいたくなものだ。(N)



モリシゲ・森田の不思議な出会い 森繁久彌さんの本

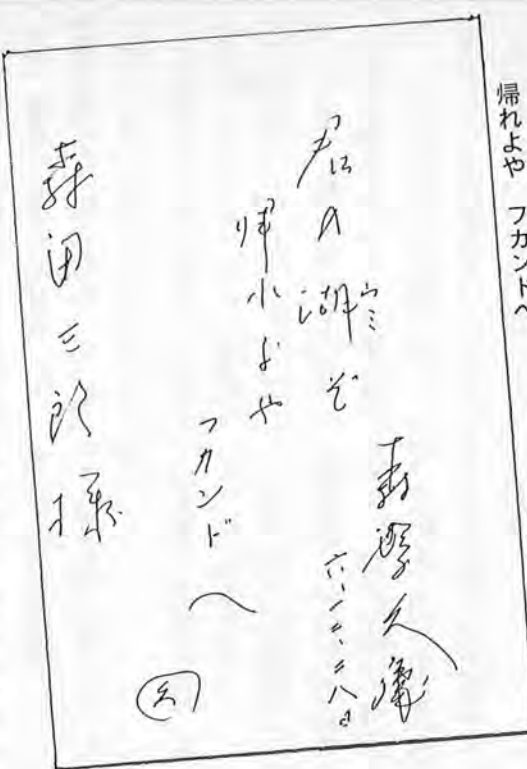
森繁久彌さんは、森田さんの古くからの支持者の一人です。日本を代表する俳優、文化功労者という森繁さんですが、森田さんときどき送ってくださる便りには、華やかなライトをあびている舞台の森繁さんとはまた別の、人情味があって、暖かい人柄が溢れています。

昨年一二月に送って下さった森繁さんの自著には、扉に写真のようなサインがありました。ちょっと驚いたのは封筒です。森田三郎様と筆で書いた紙をはがしてみたら、下から森繁久彌様という出版社からの宛て名が現れました。出版社からの封筒を捨てずにそのまま使っていたのです。

モリシゲさんから送られてきた本



(献辞) 君の湖ぞ
帰れよや フカンドへ



『帰れよや我が家へ』森繁久彌著 ネスコ発行 文藝春秋発売 1500円

三月一二日の谷津干潟愛護研究会創立二〇周年の会には、体調を崩しているとかで出席されませんでした。しかし、自筆でそのむねを知らせる葉書をいただきました。筆跡はかなり乱れています。だれかに書かせても、不思議はないのに、わざわざ自分で書いてくださったのでしよう。

森田さんと森繁さんの付き合いは、昭和五四、五年ころ、谷津干潟で始まりました。ある日、ハーレーダヴィッドソンの大型オートバイに、奥様を乗せた森繁さんが、干潟へ来て、ゴミを拾っている森田さんと会ったのだそうです。

「あなた、何をしてるんです？」
と、森繁さん。
「ゴミを拾ってるんです」
と、森田さん。 ※

干潟の重荷と痛みを軽しめん

もう十五年近く昔、「朝日ジャーナル」という雑誌に、森田さんが書いた文章です。森田さんが森繁さんと出会ったのはこのころでした。(住所は当時)



我になわん
負いし来たりし「ふかんど」の
痛みと重荷を想いなば
彼我の境も無かるべし

一つ、また一つ、ゴミを拾っていく。そうすれば、その分だけ、谷津干潟の、あの「ふかんど」の荷が軽くなる。そう思い、信じている。だから、私はやっていく。できる時に、できる所で、絶え間なく。うまずたゆまず、どこまでも、そしてまた、どこまでも。
私は新聞販売店員だ。自然愛好家や野鳥観察者ではない。その当時は見はるかす限りの干潟だった船橋市の海辺に育った。貧しい家の子ともなかった。自然保護のこととはなにも知らない。
干潟は埋め立てられて、住宅地や工業用地になった。わずかに残された谷津干潟(四〇〇)の数本の杭が私の記憶を呼び起こした。

谷津干潟クリーン作戦

軽しめん
干潟の重荷をそのたびに
一つ一つと、一つずつ
つまづき転びの我なれど
「干潟の呼び声」聞きたれば
私は選んだのだ。九九の、もつともな、立派な、できないという理由よりも、たった一つの「やれ」
「やれ」というものを。たとえそれが貧弱な、みすぼらしい身なりをしていようとも。とり残され、見向きもされず、みじめなものであろうとも。

森田 三郎 (千葉県市川市)

谷津干潟クリーン作戦とは陳腐な名だ。バカ、気がいい、土人、売名行為、よそ者、汚ネエ、といわれた。精神的税金と思う。でも一人、また一人、お茶を、ロープやマキ割りを、ゴミ袋を車を水を弁当をカンバしてくる人が出はじめた。そして、近所の主婦の人たちがゴミ拾いに参加し始めた。「私」から「われわれ」になった。
いま、女の細腕を中心に、千葉県企業庁、建設会社、大蔵省(干潟の所有者)も協力している。しかし、隣接する谷津遊園の経営者京成電鉄は、海の恩恵を受けながらゴミの不法投棄をし、駐車場のために干潟の一部の埋め立て工事着工を強行した。
私「われわれは、手を差し出し踏み込んだのだ。その小さな、やせけた「可能性」に。トンネルの中から遠くの点のような光の出口を見る。そんな心境だ。たとえ出口がなくともよい。谷津干潟の重荷を軽くしてやろうと、努力する能力を与えてくれた父や母に感謝する。そして幼き日、広い干潟

※ 「些少ですが……」
と、森繁さんは「万円のカンパをしてくださった」
それから、森田さんは個人通信だった「ふかんど」を送り続け、いままも森繁さんは「ふかんど通信」の読者の一人です。
ただ、これだけの話だけで、やっぱり人間っていいな、と思います。
送って下さった森繁さんの新著『帰れよや我が家へ』は、森繁さんが折にふれて書いた短い文章を集めた随筆集です。死について、亡くなった奥様について、青春時代について、戦時中の思い出について、お色気ばなしをまじ

えて、自在な森繁さんが楽しく、なにか考えさせるものを残してくれそうです。その中に親鸞聖人に触れた文章があって、森繁さんはこう書いています。
「百万人といえども我行かん、という荒々しいものが私の中には確かにある……」
九〇〇回を超えた「屋根の上のヴァイオリン弾き」の舞台と、二〇年を超えた谷津干潟のゴミ拾い。二人の「持続する志」の根は、その「荒々しいもの」でつながっているのではないか、と思うのです。優しい、暖かい心を支えるのは、荒々しいものではないか、とも……。

列島診断

「どんな人間として、われらと相対すや？」と。
(もりた さぶろう・新聞販売店員)

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会

〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044

習志野市制40周年記念

谷津干潟・ラムサール条約登録湿地認定、谷津干潟自然観察センター完成記念

翼に愛を

作詞 ふちさわまさき
作曲 田久保裕一

Moderato ♩=92~96

1. ひきしおら みしおみ おなすだ じまーへりて なむがれ
2. あしはか らせ ちやおか みあ おなすだ じまーへりて なむがれ
3. はるかぜ みすしおか みあ おなすだ じまーへりて なむがれ

そ の つ ゆ お だ も ー ね い さ て は よ や や や つ つ つ ひ ひ ひ が が が た た た た び さ か
の の っ お っ ば ー ー ー い さ て は よ や や や つ つ つ ひ ひ ひ が が が た た た た び さ か

す り の つ さ さ の に オ ー ア シ が ー ー よ ら は ま ま ぐ も よ
し れ の こ し さ さ の に オ ー ア シ が ー ー よ ら は ま ま ぐ も よ

れ ず ば は い る と ば ば る く け な い ふ ら つ っ し ま さ の で と へ も へ や つ は す ば ら さ か
れ ず ば は い る と ば ば る く け な い ふ ら つ っ し ま さ の で と へ も へ や つ は す ば ら さ か

う の な つ せ た ば い び さいじ にきを せつの るむる ああう いた

※浮すじ……湖のひいた干潟で川のように流れて
いる深いところ(船の通る水路)。

※馬はしら……旅立つときなど気流にのちるために、
群をつくらしむ。

は、谷津の商店主で詩人。
毎週、谷津干潟でゴミを拾
っている我々の仲間です。
だれでもうたえますよ。
静かな曲で、とくに合唱す
るとすてきたと思います。

翼に愛を
作詞 ふちさわまさき
作曲 田久保裕一

一、引き潮 満ち潮 漆すじへ
流れをゆだねて 谷津干潟
旅する翼の オアシスよ
はぐれず はるばる 習志野へ
休らう翼に よせる愛

二、葦原 砂山 船溜まり
昔の想いは 谷津干潟
やさしい心に 甦る
護れば いとしく いつまでも
翼の聖域 つつむ愛

三、春風 潮風 ささやいて
旅立翼よ 谷津干潟
別れのしぐさに 馬はしら
まよわず 羽ばたけ 故郷へ
はるかな旅路を 祈る歌

歌ってみませんか 谷津干潟の歌

とても歌いやすい、きれいな歌です。作曲者の田久保裕一さんは、昨年一月クールでグランプリに輝いた新進音楽家。七中や谷津小で教えていたこともあり、作詞の淵沢督機さん

楽園の子供達

31 絵と文 森田三郎

離れ小島(二)

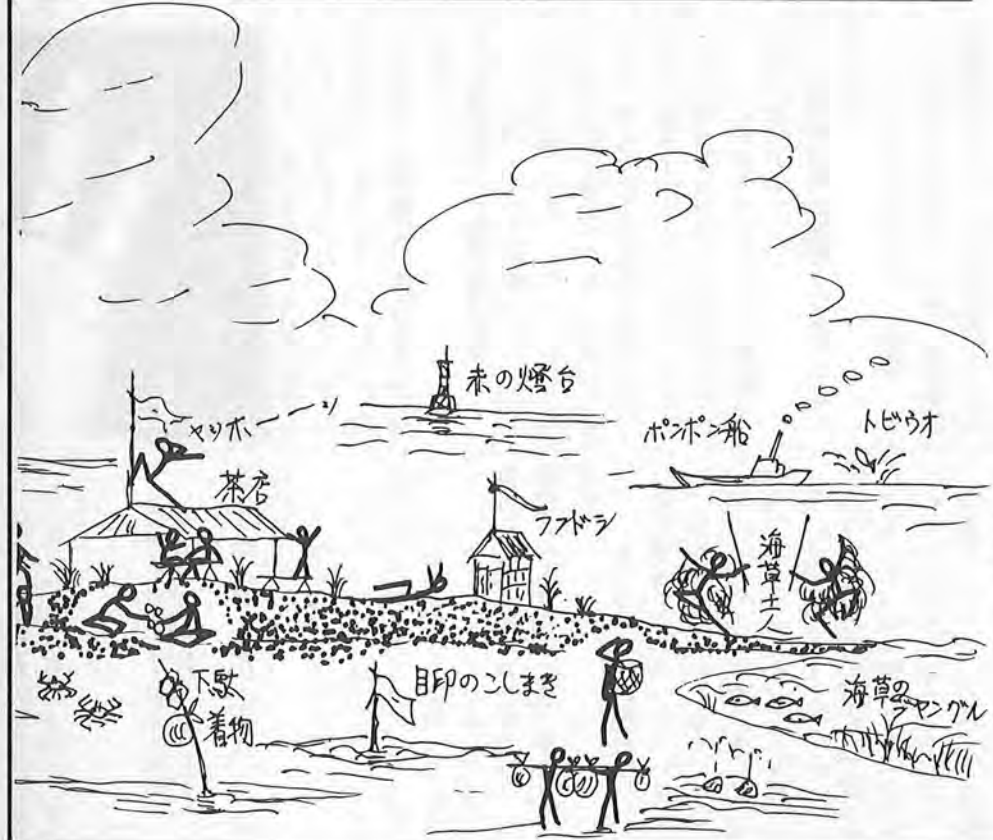
離れ小島は、広い遠浅の海の中で、ただ一か所乾いた所だったので、安心して休めた。そこで寝ころがったの這いつくばったたり座ったりして、みんなは握り飯を喰ったりぬれた服を天日と風で乾かしたり、いっばいとったアサリやハマグリを、これから岸(おか)まで持って歩いていく身支度をしたかった。

離れ小島は、こわくて身ぶるいがする程の青緑色の船みちのそばにあって、ポンポン船が、目にしみるような真っ白い水しぶきをたてて走っていく。その後からピヨーン、ピヨーンとトビウオが跳ねていた。

腰ぐらゐの深さのところに、少し歩くと、足や胴体にびっしり海藻がまとわりついて前へ行けなくなってしまうような、藻場というか、その溜まり場があった。ある日、すげえ台風が来た。大南(おおみなみ)のでっかいやつだった。近所のおばさんだっと思っが、おれんちに「離れ小島の家が流れてきたぞおっ」と言ってきた。

おれは海つばたに行ってみた。そしたら、一面の海藻や流木のむくむくとしたうねりの中に、あの見慣れた離れ小島の家と便所が藻をかぶってゆれていた。

離れ小島は波で、その砂をそっくり、深い船みちに流されてしまったという。かあちゃんが言っに



は、離れ小島の人と漁師がけんかして、漁師が離れ小島のすぐそばまで、こっそりと船みちを掘っておいただって。

☆谷津干潟自然教室……子どももお年寄りも、だれでも参加できます。毎月、第二日曜日、午前10時半、谷津バラ園前集合。

三期目へ
新たな挑戦

どろんこサブウー森田三郎のホンネの話

市政に風穴を開けよう!

干潟のクリーン作戦から市政のクリーン作戦へ、という目標を掲げて森田さんが二期目の市議会議員になってから、早くも四年が過ぎました。私たちの代表、市議会議員、タクシー運転手、そして谷津干潟クリーン作戦の戦士としての森田さんに、市議二期目の感想を聞いて見ました。

Q・一期目とどこが違いましたか?

——うん、気おくれがなくなったというかな。一期目の最初は、スーツを着て、ネクタイ締めて、革靴はいて、長い時間議会で座っているだけで、疲れてしまったものね。二期目に入って議会の流れ、市役所の仕組みがわかるようになって、ラクになった。

Q・ほかの議員はもっと早く慣れるんじゃないの?

——そうかも知れないなあ。オレの場合、組織もないし、教えてくれる仲間もないから。大体、不器用なんだよ。

YACHTING

Q・周りの目も少しは変わった?

——議員の中には、まだオレへの敵意はあると思う。市のある職員に「森田さんは市民派だから、味方もどこにでもいるけど、敵もどこにでもいる」とっていわれた。保守も革新も関係ないんだよね、これは。

二期やって完全に自信はついた。何とて、二期目もトップ当選したのが大きいね。手探りで四年間議員をやってみて、一所懸命に議会の実態を市民の前に明らかにしようとしたのを支持してくれる人がこんなにいる、という自信だね。

Q・一人会派でやりにくいことは?

——オレの方から一緒にやりたい、という会派があれば、頼んでも入れてもらおうし、この議員となら一緒にやりたい、という人がいれば、誘いもする

けど……。確かに一人ってのは心理的プレッシャーはでかいよ。

だけど、一人だから出来るってこともある。独自の関わり方ができる。組織に縛られないし、今までの行きがかりや利害にもとらわれないから。

Q・たとえば?

——一市民として考えると、おかしんじゃないか、と思うことはいくつもあるんだね。

たとえば、常任委員会の視察とか、海外視察なんかには日当が出る。オレも環境審議会委員として二万六千円の報酬をもらってるけど、これは議員の仕事のうちじゃないのかなあ。競馬・競輪委員会とか農業委員会なんかは事実上の月給になっている。こういうのは革新も保守も関係なくて、ある革新政党では「長年の指定席だから」と委員の枠を要求しているくらいだ。

行政調査費ってのもおかしい。年額一人三〇万円出るんだけど、三人以上の会派でないともえないんだ。こういうことって、普通の人は知らないよね。

一人だって三人以上だって行政調査に金がかかるのは同じだから、オレにもくれませんかかって、以前に議長に申し入れたら「私の任期中はカンペンしてくれ」って断られた。

Q・これまでの八年を通じて、どう

いうことにいちばん力を入れてきた? ——干潟のことも、環境のことも、道路のこともあるけど、結局オレは市議会ってものを市民に公開しようとしてきたんだね。「森田三郎の市議会だ

より」で、自分の給料(議員歳費)からはじまって、議長選出の実態だの、行政視察の実態だのを公開したり、審議会議事録の閲覧を自由にしたり、いろいろやってきた。でも、この壁は厚いね。

税金の使いみちを明らかに

Q・これから、やりたいことは?

議会運営委員会や党派代表者会議の公開を目指したい。ここで重要な方向は決まってしまうんだけど、今は非公開なんだ。常任委員会も、委員の過半数が賛成すれば、公開されて傍聴できるんだけど、オレが議員やってる八年間に公開されたのは二回だけ。公開されれば、誰がどんなことを言ったのか全部わかる。それが都合が悪いというのはおかしいんだよ。

その手には
すっかり指紋が
なくなっちゃって
しまったのだから……



それと、議長交際費と市長交際費の内容も公開させたいね。市民の税金の使い道は、ガラス張りなのが当たり前だと思う。選挙費用と政治資金も公開させたい。

Q・習志野市って財政危機なの?

——どのへんから危機っていうのかそれが問題だけど、とにかく平成六年で一千億円の借金がある。市民一人あたり、赤ん坊からお年寄りまで七十万円近い借金を抱えていることになるんだね。議員や市長が「あれをやりました、これを作りました」と手柄話をする陰で借金が増えていく。

Q・谷津干潟自然観察センターもその一つ?

——いや、あれはちょっと違う。もともと県から市に入った金を都市施設整備基金として、それを運用した金で、秋津・香登公園や谷津干潟の維持管理費に当てて、市民の税金はできるだけ使わないはずだった。ところが、その元金の一部を他に使ってしまった。金利も下がって苦しくなったんだ。

Q・タクシー運転手という職業との両立は?

——市議という仕事は、年四回の議会があって、一会期の実質の労働日数は一二三日だろう。それで報酬月額四五万円というのは、悪くないよね。タクシーは月に一三出番で、一回が午前八時から翌日の午前二時だけ。それでオレなんか乗車拒否は絶対しないし、働きが悪いから年収三〇〇万円行かないもの。

この間なんか、客のほうに乗車拒否されちゃったよ。市役所の幹部と市議

まだ干潟は
死んじやない……
まだ生きてるんだ



まだ干潟は死んじやない……まだ生きてるんだ

まあ、その代わり、タクシーやっていると街の動きがよく分かるし、とくに道路事情なんて絶対だ。国道一四号と三三二号の交差点とか、警署霊堂下の一四号交差点とか、ほかにもいくつか右折信号付けたところがあるんだけどこんなのはタクシーやってるから分かることだ。それとあらゆる人間と話す機会があるのがいい。知らないで乗って、森田って奴は女の味方ばかりしている、なんて悪口いう人もいて、面白い。

Q・干潟のゴミ拾いの方は、どのくらいやってる?

——最近は一カ月に六回ぐらい。パークタウン側の、昔から捨てられていた石ころだの、ガラスだの、干潟に埋まっている重いゴミを拾っている。カン・ピン・ビニールなんかは女性でも拾えるから。まだまだ続くね。森田さんも今年五〇歳。体はきつくない?

またまた続「NO.33」

きついな。市の職員で「ユニボ(建設機械)ですくっちゃいましようよ」なんていう人もいるんだけど、ユニボでやったら干潟が大きく凹んでしまう。ただでさえ、どんどん泥が流出して、干潟の面が下がっているんだし凹んだところは水が溜まって腐るだろうから、やっぱり手でひとつひとつ拾うのがいちばんいいと思うんだ。

体もきついけど、なによりも時間がほしい。タクシーに乗っているときでも、議員ノートだの、日記だの、原稿用紙だの、カメラだのをいつも持っていて、客待ちなんかでちょっと時間があれば、書いてるんだ。

DOCUMENTARY COMIC 埋もれた楽園

~谷津干潟・ゴミと闘った20年~



『少年マガジン』(講談社)一九九三年七月七日・一四日号
「埋もれた楽園」三枝義浩から 単行本も出ています。

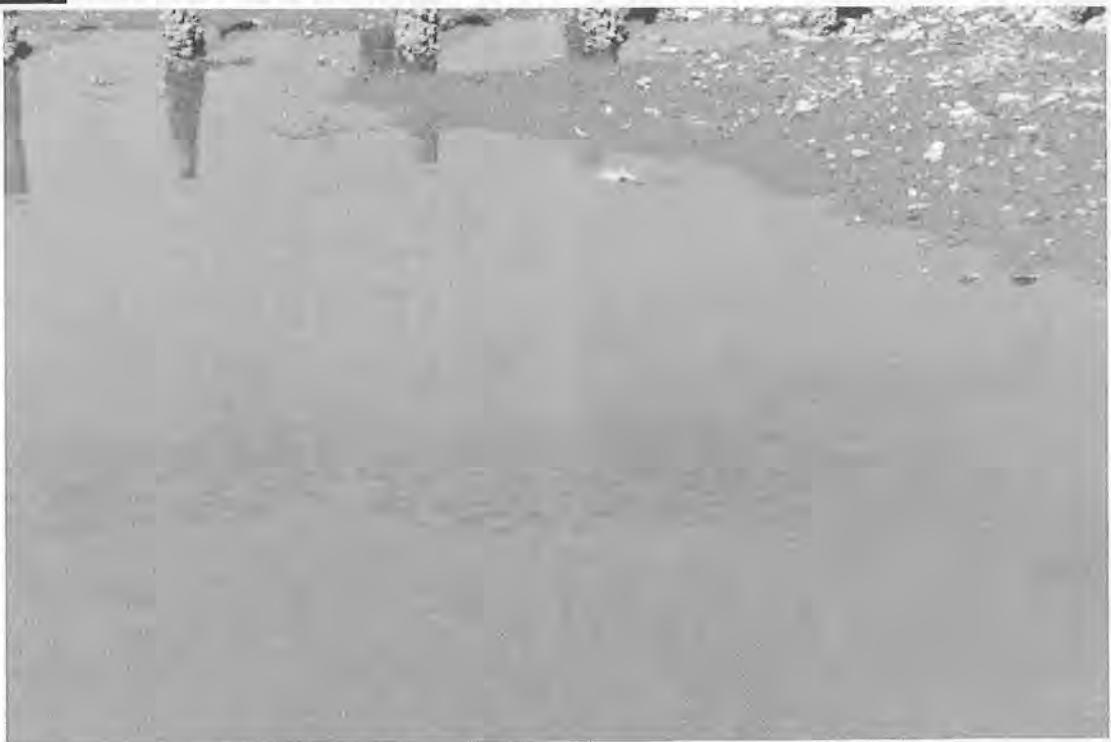
5月14日(日)は、午前・午後とも、春の渡りの最盛期のバードウォッチングです。

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会
〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044

当選御礼

私たちの代わりに森田さんに投票してくれて、ありがとう！……干潟の生き物たちから



上げ潮に乗って、イナ(ボラの子)の群れが、谷津干潟に入ってくる。干潟は魚のゆりかご。

楽園の子供達

32

絵と文 森田三郎

ブタとコロッケ

オレんちの近くに「もへじや」というコロッケ屋があった。いつも、大人はもちろん、子供もじいさんばあさんも順番で「コロッケがあがるのを待っていた。」

「コロッケ屋は小さな店だけ的小屋で、中はコロッケの匂いと煙がいっぱいだった。コロッケをあげるおじさんは、赤ら顔で丸々と太って恰幅がよく、おれはいつもすきっ腹で鼻をウソクンさせながら「このおじさん、自分ちがコロッケ屋だから、いつもコロッケやメンチ、すげえ肉のトンカツなんかええっべ食ってんだべなあ」と思っていた。

ろくに見ないで、油の中へ小判を厚くしたようなコロッケのモトを入れた。とたんにジューツと音がして、オレは、「あれがおれんちのコロッケだ」と思って、鼻をヒクヒクさせながら、じいっと見ていた。

そんなある日。いつものようにコロッケを買いにいった。そして、店の裏口から「こんちわあ」といいながら、食肉処理業者たろうか、ブタをきれいに剥いだのを担いで入ってきた。で、大きな冷蔵庫の扉を開けて入れた。

それを見てオレは思った。「コロッケ屋のおじさん、オレがブタをどっかから持って来んば、もしかしたらコロッケやメンチ、えっべとつかえてくれんかもしねえ。んで、かあちゃんとか、よるごばしてやんべえ」と思った。そのころのみやんち(宮の内)

船橋市宮本)には農家がけっこうあって、あっちこちでブタやニワトリ、ヤギ、牛を飼っていた。

で、ある日、ねらいをつけた農家のブタ小屋にサクを乗り越えて飛び込んだ。親ブタも子ブタもびっくりしてんのか、あちこちメチヤクチャにブーキーキー鳴きながら走りまわった。

その頃のブタ小屋は、ウンコも小便もフラも泥もいっしょくた。ブタって意外とでかいし、力もある。子供のオレなんか、親ブタがぶつかるとでんぐり返った。

農家のおやじが気がつかないうちの数分が勝負。ウンコと泥にまみれてなんとか子ブタにまたがって、しめ殺しにかかった。ハアハアというオレの頭の中は、コロッケとメンチと、もへじやとかあちやん。

やってみてわかったのは、ブタ

って顔と胴体がくっついてんから首っ玉なんかろくにない。だいいち、小学校二年生ぐらいの子供の指の力で、子ブタだからって絞め殺すのは大変。殺せないとわかると、担いで逃げよと思った。ブタも必死に暴れるし、重いし、なんどかよるめいてやったが、ダメ。

ウンコと泥の匂いをこらえてブタ小屋から出て走りながら、オレの頭の中に、皿の中のコロッケが泳ぐくらいにダブダブとソースをかけて、少しでも長もちさせておかずにしていた弟の姿があった。



谷津干潟の魚たち

上げ潮のたびに、谷津干潟にはたくさん魚が入ってきます。とくに目立つのが、上の写真にも写っているボラの子(イナと呼びます)です。キラキラと鱗を光らせ、長い列になって泳ぐさまは、まるで銀の糸を織り込んだ豪華な帯のよう。

二〇センチを超える大きなイナを、ダイサギやアオサギが捕まえているのをよく見掛けます。でも、大きすぎて、なかなか呑み込めなくて苦労している姿は、いつ見てもおかしい。

五月のいまは、今年生まれた小さなハゼの子を、空からコアジサシが狙っています。空中に停止した姿勢から、急降下して水面にくちばしを突き刺すように捕まえます。たくさん白いコアジサシがツーツーツと上下する姿は、だれかがヨーヨーで遊んでいるみたいですよ。

干潟でゴミを拾っていると、カニの穴に逃げ込んだトビハゼに、ギョロ目でにらまれました。有明海のムツゴロウによく似たユーモラスな顔をしています。ごめんね、昼寝のじやまをして。

谷津干潟、船橋・市川沖の三番瀬、木更津の小櫃川河口。浅瀬の海は、生命を生み、育てるゆりかごです。なんとしても、これ以上の埋め立てはしてはいけない。三番瀬の埋め立てに反対です。(長塚)



選挙つちあけ話

森田三郎のサポーターたちが、感じたままをおしゃべりしました。この次はあなたも仲間にも、どうぞ。

みんな カンパニー。森田さん
トップ当選おめでとう。
森田 ありがとう。市民のみなさんのおかげです。なによりも嬉しいのは、事故がなく終わったことです。それに前回より五百あまり票が増えたこと。やっぱりオレのやってきたことが、間違っていないかったって……。

主婦A でも、票をとりすぎたって、あとで他の議員さんから恨みを買わないかしら……。
会社員B しかたないよ。森田さんの場合、この票の数が、市議会に孤立してもやっていける力に

なっているんだから。
主婦C ある人から、他の候補者は、選挙のときだけのパンフレット、森田さんはいつも市議会だより「せせらぎ」をきちんと出しているからっていわれた。
森田 ほかの議員でも、きちんとやっている人もいるけど、たいいてい自分の支持者とか、地盤としていられる地域だけだから……。オレもほんとは市内全戸に配りたいんだけど、金も人手もそこまでいらない。半分ちよつと。

後援のバス旅行

主婦D お金はすいぶんかかるんじゃない？
森田 選挙の前だけ、後援会の人たちをバスで旅行に連れていったりするほうが安いかな。「ふかんど通信」の費用も、ほとんどオレが負担していて、一年四回で百万円。四年で四百万円だもの。
会社員E オレは、船橋のある市会議員のバス旅行に行ったことがある。会費一万五千円で、バス七台で鬼怒川温泉へ一泊。豪華な宴会でね。びっくりしたのは、余興の踊り子や太鼓叩く人たちに、一万円札をトランプみたいに扇型に持った人が、ベタベタ貼りつけてたこと。

主婦A バカバカしいわね。
学生F それにしても森田さんの選挙って質素というか、金がか



おなじみ 森田三郎の選挙カー

からないって言うか……。ボクは面白いから方々の選挙事務所のぞいてみたんだけど開票のとき、○さんの事務所なんかじゃ酒樽の鏡を抜いて、女性には大きなケークを切ってくばってたよ。
主婦G 御馳走がなくてわるかったわね。ところでF君は二十一歳で、選挙は初めてでしよう？
学生F はい。県議選はつまんないから棄権したから、今度が初めて。



駅前には違反のボリが林立

会社員H じゃ、なんで森田さんの選挙手伝ったんだよ。
学生F ボク、小さいときから干潟の側に住んでいて、干潟にゴミもさんざん捨てたし、森田さんに花火ぶつけて追っかけられたりしてたから。両親も、すいぶん干潟にゴミ捨てたそうだし、それでまあ、恩返しってわけだ。

二隠居 そういふのは、罪滅ぼしっていうんじゃないの？
学生F あ、そうか、そっちでも、この選挙事務所って面白い。ほかじゃみんな目を血走らせてやってくるのに、なんかのんびりして……。

会社員I オレたちだって必死でやってるよ。ただ、面白いからやってくるのも事実だけどね。

堂々と選挙違反

主婦C Iさんも初めてね。どうだった？
会社員I 私、選挙は二度目です。この前は、学生時代に成田闘争の関連で戸村一作さんの参議院全国区の選挙を手伝った。今回は面白かったけど、もう少し、マイクを握らせてもらいたかったな。
主婦A Iさんがしゃべると、カネのない森田です。干潟のゴミ拾いの森田ですって言うからよ。
会社員I その通りだもの。
森田 でも、オレにもミエってものがあるからなあ。何も金のないことを宣伝しなくても……。

主婦J 選挙の面白さって、やっぱり反応があるからなのね。選挙カーで走っていても、手を振っ

てくれたり、団地の窓から応援してくれたり、あれが本当にうれしいのよ。
主婦C JR津田沼駅で朝、挨拶に立っていたら、すごい美人が森田さんにニコリ笑って手を振っていったって、すごく喜んでたじゃない？

森田 そうそう。俺だけ気がついてたのかと思っていたら、Bさんも、Eさんも、翌日また、あの美人通らないかなって……。
主婦A/G/J まったく、どこを見ているんだか。

会社員B それにしても、候補者の個人名を書いたノボリを、個人演説会場内外に立てられないというのはいらないね。
主婦D あら、みんな立ててたじゃないの。公営掲示板に貼ってあるのと同じポスターまで立てていた候補者もいたわよ。

会社員B たしかに自民党から共産党まで、みんなやっていたけど、あれは違反なんだ。オレたちも個人名のノボリはあるんだけど選挙違反はどんな些細なことでもやるまい、と決めていたから……。

ルール だから仕方ないけど、候補者一人に個人名を書いたノボリは五本までとか決めて、解禁した方がいいんじゃないかなあ。さもないと、公職選挙法なんて法律がないも同然になる。

主婦C 京成津田沼の駅前の交番の前でも、堂々とノボリを立ててやっていたものね。

会社員I われわれは谷津干潟クリーン作戦のノボリをもって立っただけで、あれ持っていると心強いんだよね。ダテに毎週干潟にこの旗立てて、十五年間、ゴミ拾いしてたんじゃない、って闘志が湧いてくる。森田さんは二十年だもんね。

主婦C あのノボリも黄色のトレーナーも、すいぶん色褪せたわね。クリーン作戦の作業服だから仕方ないけど。

主婦A でも、今度の選挙は、違反ポスターだけは少なかったわね。ほとんど公営掲示板以外には見なかった。前回はすこかったもの。とくに某市長候補のが……。

会社員E あれだけでも、街がすいぶんきれいな感じだった。あとは騒音だけだね。選挙カーの。森田 それをいわれると、申し訳ない。オレもけっこうスピーカで流しているから。自分でも、これは環境破壊だと思う。だけど選挙カーが回ってこない、森田さん、今度の選挙は出てないの、

なんていう人も実際にいるわけなんだ。オレはなるべく連呼じゃなく、考えとか、政策とかを述べようとしたつもりなんだけど。
主婦J 走りながら何か喋っても、実際は内容のあることは聞き取れないのよ。
会社員K 選挙のたんびに思うんだけど、サラリーマンくらい選挙の役に立たない職業はないね。初日と最終日の土曜日ぐらいしか参加できない。選挙って結局、人手だろ？ 選挙カーの運転手だの、掲示板のポスター貼りの、ウケイス嬢だの……。われわれはボランティアでやってくるけど、金を払っていたら大変だよ。
会社員E サラリーマンは、住んでいる所で人のネットワークもないしね。それに比べて女性は、生協だのPTAだの、趣味の付き合いだのって、選挙にはずつと頼りになる。



クリーン作戦のノボリと共に

会社員K オレは森田とは中学卒業以来の付き合いで、選挙に出ると聞いたとき大反対したんだ。カネもないくせによせて。

選挙は政治の始末から

主婦D うちの息子の同級生だけど、ある候補の選挙事務所であらバイトして、時給千円。一日一万円になるって。仕事は電話番とか掃除くらいで、それも選挙のかなり前から……。選挙事務所借りたってお金がかかるだろうし。今回から選挙費用の公費負担が増えたから、立派な車をレンタカーで借りたり、夜でも明かりのつく看板のせたり、派手になったわ。森田さんは相変わらず、自分の軽ワゴンで、自宅が事務所だけど。
主婦L 今回は選挙公報も初めて出たし、違反ポスターも激減したし、だいぶ良くなったと思う。何となく選挙は政治のスタートなんだから、もっときれいにならなければ……。そのためにも森田さん頑張ってください。

森田 ありがとうございませす。頑張ります。

主婦C それじゃ、また四年後会いましょうね。なんだか同窓会みたいで楽しいけれど、また四つ歳をとるのがイヤね。

だれでも参加できます。毎月第二日曜日 午前十時半 谷津バラ園前集合 連絡先0474-172-17865 佐藤康子

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会
〒275 習志野市谷津
3-29-11-102
Tel. 0474-51-5044



あのガマ 冬眠してるかな

「おい、あとでちゃんと、もとのところに逃がしてやるんだぞ」

「うん、わかった。ちょっとだけね」

「このガマちゃん、かわいーい」

暑い盛りのバラ園前の干潟脇。ついさっき、カニの捕まえ方を教えてやった。ゴミ拾いのお礼に。

「あそこがいいよ」、「ここがいいよ」と、カニの穴を見つけては、なんだかんだと甲高い声を出して、土と泥の塊をこねくり回していたこの二人、すぐ帰るかと思いきや、いろんなことをきいてきてなかなか離れない。

「きみたち、ガマガエルって知ってるか？」

「知らなあい。見たことなあい」

団地に住んでいれば無理もない。

「ここんところにガマガエルがすんでるんだぞ。見つけられるか？」

いつもゴミ拾いの後で手足を洗う水道の脇の植え込みのそれらしきところに水をかけながら言った。

気持ち悪がるかと思ったり、とんでもない。あっちに回りこっちに回り、大捜査を展開。

「いたあーっ！」

「こっちにもいたあーっ！」

意外なほど興味を示し、次々と六匹も七匹も出てきたガマを手にする、うれしくってしようがないのか、頭、顔、胸、ところかまわず自分の体におっつけて大喜び。自慢げに見せるガマをよく観察すると、体の模様が全く違っていった。

ガマ君、ごめんね。また来春、元気な姿を見せろよな。



楽園の子供達

33

絵と文 森田三郎

好きな女の子(一)

たしが小学校三年ぐらいの頃だ。好きな女の子と机が並んだ。

この子、きれいで、頭がすげえーよくって、服もきちんとしてみんなちゃんと着ていた。学校の先生がお父さんで聞いていた。

髪なんかよくかしてあるし、ハンカチがいつも真っ白でピンとしていたので、オレはすげえ大事そうに、上品な、お姫さまみてえな気がしていた。

鉛筆はちゃんときれいに削ってあるし、筆箱もオレのみたくデコボコじゃなくて、お花やお人形が書いてある、ピンとしたやつだった。

オレの鉛筆はいつも、台所の刃が欠けた半ばノコギリみたいな包丁か、父ちゃんのカミソリで削っていたので、とにかく心が出て書

けるだけの削り方だった。

たまあに鉛筆削りの五田のナイフを買ってもらったが、弓矢やパチンコなんかをつくったりしていたので、すげえ面白かった。

ナイフがなくて字が書けなくなって困ったときなんか、昇降口の石のところでこすったり、歯で木をむいたこともあった。

オレがちゃんと学校へ行くようになり、楽しくなったのは、その女の子のせい大きい。

学校がつまなくて、墓場のアオギリの木の上の巣っこ(ヤグ)で遊んでいると、おふくろと一緒に先生が木の下に来て、「森田くん、学校にいこう！」と呼んでいたくらいだ。

恥ずかしさとうれしさと誇りみたいな気持ちで机を並べていたある日、授業中にオレは鉛筆を床に落とした。で、イスを後に押し

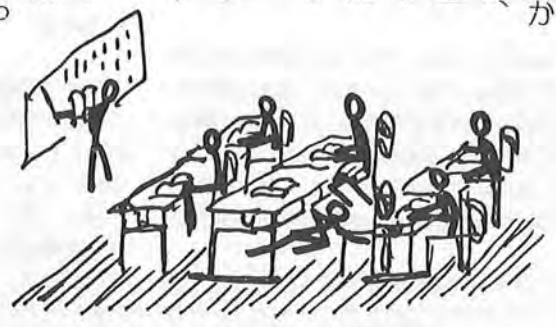
床に這いつくばって鉛筆を拾った。

女の子のスカートのすぐ下だったので、ちょうどそのくような恰好だった。

ズロースは見えなかったが、膝の上のほうが見えた。

が、不思議な感じがした。すげえ、この女の子、何か、大事そうに

ていうか、よくわかんねえけど、なんか大切な、ちょっと怖い、それでいて怪しくなるような感じだった。



それと、靴下ははいてるし、あんなにもきれいくはけるなんて、なんてお上品にちゃんとできるかわかんなかったし、またお等感と憧れみたいなものがいっぱいになった。

それ以来、時々わざと鉛筆や消しゴムを落とした。それで、おそろおそろ、そして憧れみたいなよくわからないものを感じながら、スカートの下、その中の、ものすげえきれいな脚を見た。

消しゴムはよく弾んで、とんでもないほうへ行ってしまつたので、これは途中でやめた。先生から鉛筆を落とすのを注意されたり、スカートの下からのぞき込もうとして、机やイスに頭をよくぶつけた。

でも、その女の子から、「森田くん、あたしの鉛筆使っていいわよ」なんて何回か言われて、オレは、動草、みてな気持ちで、触るのがこわくてももったいない気分になつてしまった。で、いつのまにか、スカートの下からのぞかなくなつていった。

習志野声明 (参考訳)

地元の人々及び共同体が湿地の賢明な利用に参加することを確保し、湿地における生物多様性に関するパブリックアウェアネスを推進するための行動指針

我々、1995年10月28-29日にかけて千葉県習志野市において開催された谷津干潟国際シンポジウムの参加者は、本シンポジウムを主催した習志野市、および企画したラムサールセンターに対して謝意を表明し、湿地はアジア地域における生物多様性の維持に不可欠であり、湿地の価値と恩恵は何物にも代えがたいことを認識し、アジア地域において多くの湿地が既に消失していることを懸念し、環境悪化の進んでいる湿地を回復し、残された湿地を保護することが焦眉の課題であることを認識し、しかしながら、地元の人々および共同体が開発事業と管理事業の計画立案と実施に十分に参加できず、それゆえに実施と運営がしばしば失敗していることに留意し、地元の人々と湿地が相互に依存していること、および湿地の賢明な利用において文化的遺産と地域慣行が極めて重要性であることを認識し、湿地に関わる事業の立案および実施において、地元の知識が重要であることを認識し、事業の計画立案、基本方針の策定、および湿地の管理・開発に地元の人々および共同体が参加する必要があることを認識し、この行動指針は大津・釧路・インドネシアのセルボタン・タンゲラン、およびタイのナコンパトムで開かれたこれまでのワークショップの論議とナコンパトム宣言に基づいていることを承知し、また、更に、1993年に釧路において開かれたラムサール条約第5回締約国会議で採択された釧路声明が、湿地保全に関するパブリックアウェアネスおよび人々の参加の促進を求めていることに留意し、ここに地元の人々および共同体が湿地とその資源の賢明な利用に参加することを支援するために、NGOならびに関係機関が利用する行動指針を以下のとおり提案する。

1. 湿地が長期的に地元の人々にもたらす恩恵を認識し、維持すること、および湿地の資源に対する脅威を最小限にとどめることが重要である。
 - 1.1 湿地および湿地資源の保全と賢明な利用の成功は、女性および若者を含む地元の人々が主体的かつ自由で意義のある参加をすることに大きくかかっている。
2. 地元の共同体が湿地資源を管理する立場にあり、かつそれを賢明に利用する権利を有していることを認識すべきである。地元の人々は、湿地に関わる計画立案や管理運営に関与し、可能な場合には管理委員会に代表を送る機会を与えられるべきであり、また、その参加の権利は法的、行政的に保証されるべきである。人々の参加の目標は、意志決定の過程に人々が主体的に関わるることによって、人々が湿地の保護および管理に対する責任を担えるようにすることである。
3. 地元の共同体に根ざした組織(CBOs)の育成を奨励するとともに、湿

地とその資源に関する計画立案およびそれらの利用と管理において、CBOが役割を果たせるようにすることが重要である。

4. 開発事業が湿地の生態的特徴に著しい変化をもたらす恐れのある場合には、環境影響評価(EIAs)が実施されるべきである。
 - 4.1 湿地に影響を与える事業に関するEIAにとって、何が最小限必要なデータであるかを明確にすべきである。
 - 4.2 地元の人々は、湿地およびその周辺で行われる事業に関して、その計画立案のできる限り早い段階から、また、その後のいずれの段階においても、情報を提供され、意見を求められ、関与をすべきである。EIAの結果は、事業の実施の前に広く公開されるべきである。
 - 4.3 EIAの実施においては、社会的、経済的、文化的側面を適切に重視すべきである。
 - 4.4 モニタリングとその結果の評価は、事業の計画に組み込まれるべきである。その過程から得られた結果は、当該事業にとどまらず、今後の事業の計画にも反映されるべきである。
 - 4.5 EIAの過程に参加するにあたって、地元の人々が負担するコストを軽減するために、必要とされる支援を提供する体制を整えるよう、十分に考慮すべきである。
5. NGO、政府、地方自治体、私企業、研究機関そしてメディアは、地元の人々や企業の主体的かつ効果的な参加のために、情報の提供および教育を通じて、地元の人々や企業が湿地の生態系のみならず、湿地に適用されている法的および行政的手続きを理解できるよう支援すべきである。
 - 5.1 前述の責任を果たすために、政府は適切な関連する象徴の中に湿地に関する窓口を設けるべきである。5.2 メディアは、湿地に端する教育とアウェアネスにおいて、正確な情報を提供することによって重要な役割を果たすべきであり、誤った、あるいは誤解を生みかねない情報の提供を避けるべきである。

谷津干潟国際シンポジウムは、ラムサールセンターに対して、このシンポジウムの行動指針をアジア諸国政府および1996年にプリズベンで開催される第6回ラムサール条約締約国会議に通知および提出し、その会議期間中に開催する予定のフォローアップ会合において、その進捗状況を検討するよう要請する。また、更に、このシンポジウムの参加者に対して、この行動指針を各国語および各地域言語に訳し、できるだけ多くのNGOおよび関連組織に配布するよう要請する。

谷津干潟国際シンポジウム

~習志野からアジアへむけて~

千葉日報 '95.10.30

国際協力で湿地保全へ

谷津干潟で 環境保護活動家招く



習志野市で開かれた「谷津干潟国際シンポジウム」



ラムサール条約で登録された湿地に指定されている習志野市秋津の谷津干潟自然観察センターで、29日、「谷津干潟国際シンポジウム」が小林光昭環境庁自然保護局野生生物課長、三浦弘真環境部自然保護課長、B・バンダリ博士(ネパール)の関係者約100人が参加して開かれた。

谷津干潟は一九六〇年七〇年代、高度成長の波に押され東京湾・京葉工業地帯の開発が進み、周辺の干潟は次々と埋め立てられた。しかし、一九七二年、干潟を守る市民運動が生まれ観察会やゴミ拾いなどが続けられる中で、関係機関への陳情や市民運動の高まりによって谷津干潟が奇蹟的に保全された。

谷津干潟は一九六〇年七〇年代、高度成長の波に押され東京湾・京葉工業地帯の開発が進み、周辺の干潟は次々と埋め立てられた。しかし、一九七二年、干潟を守る市民運動が生まれ観察会やゴミ拾いなどが続けられる中で、関係機関への陳情や市民運動の高まりによって谷津干潟が奇蹟的に保全された。

この10月28-29日の両日、谷津干潟自然観察センターにおいて、習志野市とラムサールセンター共催で「谷津干潟国際シンポジウム」が開かれ、「習志野声明」が採択された。

この声明は、来年3月にオーストラリアのプリズベンで開催される「第6回ラムサール条約締約国会議」に提出されることになっている。また、市から職員も派遣され、参加する。

ところで、この声明内容は、長年にわたって谷津干潟に関わってきたわれわれNGOから見ると、まことに結構なものになっている。行政の側からはいくつかの「注文」がついていてもいいらしいのシロモノ。

たしかに、わが習志野市の谷津干潟から世界に向けて、この声明が出されることはそれなりに意義はある。とはいっても、この声明だけでは文字通り「仏つくって魂入れず」になってしまう。

われわれがここで強く言いたいのは、この「習志野声明」なるものが生かされ、実のあるものとされるために、これを、どうやって、どのように具体化、行動化されていくかだ。これが賢明で、大切なことなのだ。勿論、特にこの習志野市—谷津干潟において。

と同時に、市民もNGOも、もはや単に権利だけを主張する時代ではないのも明らか。

谷津干潟のみならず、まちづくりやふるさとづくりも、地道な、コツコツとやっけていく、息の長い、そして絶え間ない努力が必要であるとの感を持った次第である。

いかに具体化していくか

あれ!?!
ウミネコが
フェンスに



……と思ったら、つくり物でした。ここは、干潟に近い秋津5丁目住宅地。それにしても、よくできているなあ。さっと見ただけではわからない。

秋津5丁目には、この家のほか、玄関のドアにこげいかなカルガモの彫刻を飾った家があったり、鳥をデザインした表札がかかっている家もある。やっぱり干潟に近いせいかな。

ふかんど通信

発行 谷津干潟友の会

〒275 習志野市谷津

3-29-11-102

TEL 0474-51-5044

楽園の子供達

34 絵と文 森田三郎

好きな女の子(二)

スカートの下からのぞぎ込んだ女の子は四人ぐらいた。みんなきれいで、成績も良くって、身なりがきちんとしている子だ。

好きっていうか、憧れっていうか、要するに、なんとなく魅かれてる、子ばっかし。

オシと、オしんちとは違つ、ないものねだりだったのかも知れない。オしんちはずーっと貧乏だった。家の電気は電球一個。服の五個のボタンはみんなすべふつとばしちやうからテンデンバラバラ。バンドなんか買ってもらえねえからいつも「エエ」でゆわえていた。給食で食器持参のときも、黄色い竹の塗りの箸で、おつけごと飯の瀬戸物の茶碗を新聞紙にくるんでいった。

形を描いてあるきれいな箸箱に入っていた。弁当も、オしのは麦飯だったから黒ずんでいた。女の子のはと見ると、まっ白で、黄色い卵の黄身が目に見えた。

オしは小学校三年ぐらいいのときから、みそ汁や飯を自分で炊いていた。かあちゃんから、米二合に麦一合入れろと言われていた。やらなかったら怒られたし、炊きあがった飯はかあちゃんがシヤ

モジでかん回しちやうから、弁当箱に自分で飯を詰めても、麦はどうしても入っちゃうし、かあちゃんは見えた。

女の子のうち、ギッチョンやバツタがいっぱいいる畑と草むらに面していた。オしは素早いギッチョンを捕まえるのが得意だった。ある日、ギッチョンを捕りに行ったら、オしが学校で見た女の子のスカートが干してあった。白い

靴下もだ。んで、恐る恐る近づいて、でも、その家の中からわかんなえだろつぐらいいに近づいて、大事なものを見るようにして、見た。あるとき、何人かのクラスメイトと一緒に見に行った。でも、そ

いつらが心ざけたり、面白半分に何か言つのを聞いていて、なんだか汚されるような気がしたので、一緒に行くのをやめた。

ギーチョン、チョンギース。あつちでもこつちでも、こつちもくらの夏の炎天下の草むらや、畑みちの斜面の草の中。ギッチョン天国の畑の砂はふかふかして、もべつた裸足に熱かった。

ギッチョン捕りのふりをして、干してあるスカートや服を見た。オしは自分でも、これはあんまりいいことではない気がしていた。一回だけ、バチンコと言矢を持つていった。スカートを撃つため

だ。命中率のいいバチンコを使い、たとえはずれても障子やガラスに当たらないよう、程よい距離から斜めに撃って当てた。わりい気もしたが、納得もした。

ある夕方、うちの用をしながらたといつて、かあちゃんからぶたれて裸足でうちをすつとび出して、すきっ腹で歩いてきた。向こうからお風呂帰りのその女の子と母親

が来た。頭に手拭いをしたその子が大人びて見えた。

「森田君と、うしたの、どつち行くの？」。オしは無言で足早に「バツタと下を見て通りすぎた。みじめな顔と涙を見られたくなかった。



習志野の海に



「プッフッフッフ」と、強く短く息を吐きながら、ベタッベタッベタッ」と、足をぬれた砂地にたたきつけながら、追いかけてきた。口を開け牙を見せ、息の匂いがした。

一九八一(昭和56)年五月、まきれもなく野生のオットセイが習志野の海に泳ぎ着いた。場所は茜浜谷津干潟の東水路の出口近く、ホンダの埠頭の少し先。いまの千葉トヨペットのところだ。

埋め立てから間もない頃で、コンクリート護岸もなく、丸太や板で土止めをしたところから砂が自然と流れ出して、アサリやハゼがうんざりするほどいたきれいな砂浜。

コアジサシの繁殖調査をしていた私は、荒川河口から花見川まで、どこにどんな砂地があるかは詳しく知っていた。

オットセイが上陸して休めるのは砂浜しかない。習志野や船橋の海にオットセイが出没していると耳にした私は、すぐ発見した。黒くて太い流木かと思つた。が、ゴロゴロ寝返りをうっていた。

この写真、カメラとの距離は約二・五メートル。私に向かつて走りだす直前のもの。

後で聞いた話だが、同じ頃、ゴミ拾い仲間の長塚進吉氏は、茜浜に釣りに行ってきた子供の弦くんから「父ちゃん、きょう茜浜にオットセイがいたよ」と聞き、「何を言ってるやがる、習志野の海にオットセイなんかいるわけねえじゃねえか」と、一笑に付したそう。

数日して捕らえられたオットセイは江ノ島のシーワールドへ引き取られたという。(写真・文 森田三郎)



みんなで守ろう!! 三番瀬

東京湾全体をラムサール条約登録地に

朝日新聞 96・2・6



企画報道室

東京湾奥に唯一残された干潟「三番瀬」で、千葉県が一月末から大がかりな生態系調査を始めた。埋め立て計画を進めるうえで必要な環境調査だ。一年半かけ四、五億円を投じる。

東京湾は汚れ切った死の海だと思っている人が多い。私もそうだった。それがかなりの誤解で、干潟や浅瀬を中心に豊かな江戸前の海が残っていると知ったのは、六年ほど前、三番瀬保全の市民運動を取材したのがきっかけだ。

沿岸の高層ビルが見える近場で、ぶらぶら肥えたイワシやアサリが驚くほど取れ、船橋漁協だけで漁民が約二百人いる。

三番瀬は干潮時には水深〇、一メートルの約二百枚の遠浅の海である。海岸の九割が埋め立てられた東京湾で本来の姿を残す数少ない場所だ。その三分の二近い約七百四十枚を埋め立て、港湾設備や下水処理場をつくるのが千葉県や国の計画だ。

浅瀬や干潟は陸で言えば、有機肥料で地力の高い田んぼや畑のようなものだ。潮が引くと砂地に新鮮な空気がたつぷり供給されるため、ゴカイやカニ、アサリなどの底生動物がごっそりいる。魚の産卵・生育場でもアサリやカレイ、ノリの好漁場。日本有数の渡り鳥の中継地であり、大東京のヒートアイランド現象を緩和する役割も大きい。

しかも、底生動物が汚れ(窒素やリン)を食べるので、常識を超える海水浄化能力がある。面積は東京湾内湾の一・二五%しかないが、夏には湾に流れ込む窒素の約十五分の一、リンの約五分の一を除去するといふ調査もある。赤潮で濁った海水二十リットルのバケツに三十個ほどのアサリを入れたら、約二十分

で水が澄み実験に舌をまいた。そういうデータにも増して説得力があったのは、「東京湾は本来、沿岸三千万人の住民のものだ。海岸線を囲い込んで、住民を海から遠ざけ、廃棄物や処理施設、工場などを張りつける開発はもうやめるべきだ」という、海の公害撲滅に力を入れた元東京都公害規制部長・故田尻宗昭さんの主張だ。

谷津干潟自然教室へのお誘い

オナモミの実を「とげまるクン」と呼ぶ子がいたり、ダイサギの緑に緑取られた目元を見て「クレオパトラだわ」と言う大人がいたり。谷津干潟自然教室は自然を勉強するのではなく楽しむための教室です。

普段歩いている道や公園にも、よく気をつけてみるとすてきな発見がたくさんあるんです。タンポポの花をルーペでのぞいてみたり、クスノキの葉っぱを手で揉んで匂いをかいだり、鳥たちの好きな木の実でリースを作ったり、そんな楽しい遊びをしてみませんか。

大人も子供も、年齢を問わずたくさんの方の参加をお待ちしています。どうぞお出かけください。

- *毎月第2日曜日 午10時半 谷津バラ園前集合
- *参加費 100円 (会報コピー代、教材費等)
- *持ち物 昼食、敷物、お水、双眼鏡、鳥の図鑑等
- *連絡先 0474-72-7865(植) 0474-75-4749(訓)

谷津干潟自然教室プログラム

月日	テーマ
4月14日	木に咲く花を探そう
5月12日	バード・ウォッチング
6月9日	菖蒲園めぐりして歩こう
7月14日	ネイチャーゲーム
8月	お休み
9月8日	夜の自然観察会
10月13日	トノサマバッタ釣り大会
11月10日	草木染め
12月8日	鳥のためのリース作り

※ 予定ですので、内容を変更する場合があります。なお、午後はいずれも干潟とその周辺でバードウォッチングを楽しめます。

谷津干潟が国際的な舞台へ正式には、東アジア・オーストラリア・シベリア・チドリ類のためのネットワーク。北はロシアから南はオーストラリア・ニュージーランドまで渡り鳥の飛行距離の約1万km。南北米大陸、ヨーロッパ、アフリカ、そして今谷津干潟が登録されたこのネットワークと世界の三本柱が成立した。

三月二十四日からプ市で開かれるラムサール条約締結国会議に参加、アジアプロック会合で谷津干潟の現状について説明を行う予定です。その合間をぬってプ市側との協議を行うことになっています。

コラム私の見方 東京湾再生「三番瀬」から

安部 宏康

拒否の絶対的な権限を持つ委員会が誕生。強力な保全対策を講じた結果、海水浴ができるようになり、カキも生で食べられるようになった。

一九九二年、国の港湾審議会に千葉県が提出した計画に対し、環境庁は「三番瀬は東京湾に残された貴重な浅瀬だ」とし、詳細な調査、埋め立てが必要かどうかの十分な吟味、環境アセスメントなどを求める厳しい意見を付した。今回の調査は、これを受けたものだ。

約三百種類の三番瀬の生物のうち主なものの卵から成体までの生活史を明らかにすること、水鳥の種類ごとに四季、夜間を通じての行動を調べること、水質・底質・青潮の調査など、その内容は詳細で膨大だ。きちんと調査し、素直に分析すれば、埋め立てはすべきではないという結論が出ないだろう、と思

下処理場や港湾整備については、バブル崩壊後の社会情勢に即して再検討を求める意見がある。

海岸の保全に関して、日本は紛れもなく後進国だ。幸い三番瀬埋め立ては、まだ始まっていない。計画撤回を含む大幅な見直しを検討する余裕は十分ある。それは、東京湾だけでなく、悲惨な状態にある日本の海岸の再生の転換点になるはずだ。

朝日新聞 96・2・15

知事を有権者の目で監視

日本野鳥の会県支部(根本喜一支部長)は十四日までに、東京湾奥の干潟「三番瀬」の埋め立て計画に反対する立場から、沼田武知事の今後の言動を「賢い選挙民の目」で監視し続けることを決議し、知事あてに決議文を送付した。

決議文は沼田知事の発言を「三番瀬の自然環境を保全しようとする県民の意思に反するもの」とした上で、土地利用の必要性を吟味すべきだ」との提言を出したが、沼田知事は「推進を図りたい」などと発言していた。決議はこの発言を受けたもので、先月の同支部総会で承認された。

劇化したり、特に熱心だったことから表現したものです。東野中は生徒数三百七十八人、森田さんは長年、習志野市ですが、森田さんを「干潟の恩人」と呼び、広大な干潟の保全運動に取り組み、その広がる有明海の堤防を利用し活動を続けた漫画は人々に大

「埋もれた楽園」主人公 森田さんが訪問 干潟の恩人に感動

佐賀県東与賀中学校に十一月七日、雑誌「少年マガジン」のドキュメントコミック「埋もれた楽園」の主人公・森田三郎さんが訪れ、講演しました。



干潟美術館と森田さん

習志野市とオーストラリアの姉妹都市提携を計画

習志野市とオーストラリアのブリスベーン市との間で、姉妹都市の提携を行う計画が浮上している。ラムサール条約登録地である谷津干潟にオーストラリアから渡り鳥が飛来しているのが縁で、両国政府レベルで話が持ち上がった。習志野市では今月下旬、荒木勇市長がブリスベーン市を訪問して提携を模索する方針だ。

谷津干潟では、オーストラリアで越冬し、夏にシベリアで繁殖するオバシギ、ホウロクシギ、トウネン、キョウジョシギが、五月ごろと八月ごろの年二回飛来して羽を休めるほか、コアシギも五月ごろにオーストラリアから飛来し、繁殖と子育てを終えて十月ごろに戻るといふ生活を送っている。

このため、昨年六月にオーストラリアで開かれた「日豪渡り鳥会議」で、姉妹都市提携を検討しようという話が出て、環境庁から習志野市に打診があった。ブリスベーン市は人口十五万人の大都市で、人口十五万人の習志野市とは規模が違いすぎるが、習志野市としては当面、谷津干潟とブ市郊外にある湿地との「湿地提携」を結び、双方の湿地研究者や保護団体の交流を進めたいと考えた。荒木市長は三月二十四日からブ市で開かれるラムサール条約締結国会議に参加、アジアプロック会合で谷津干潟の現状について説明を行う予定です。その合間をぬってブ市側との協議を行うことになっています。

ふかんど通信

発行
 谷津干潟愛護研究会
 〒275 習志野市谷津
 3-29-11-102
 Tel. 0474-51-5044
 Fax. 0474-51-5044



楽園の子供達

35

絵と文 森田 三郎

かいぼり

かいぼり。そう思っただけで、子供の頃の水や泥や匂い、その感触が、動物的っていうか、本能的なものがかみ上げてくる。

かいぼりとは、小川をせき止めたり、池の水をがい出すのだ。

小さなころでも、「三時間くらい。」「こん中あ、ええーっぺいんだろなあ」とってな感じのところは、厩前からやって、暗くなる頃までやってた。やり切れないでくやしい時は、次の日に来てまたやりだすのだった。

バケツ、洗面器、ひしゃく。水をがい出すのだから、なんでもうちん中から持ってきてやった。それはみんな台所でいつも使うものばかり。おれんちだって、かいぼりのやり方を教えてくれたガキ大将のマーちゃんちだって、みん

な食ってたから、かいぼり用のものなんて何もなかった。

そんなだから、かあちゃんが新聞配達から帰ってくる前に、わかんねえように、ちゃんと洗ったつもりで返しておいた。でも、すべ

バしちやって、「なんでこんなボコボコにして、生臭くしちゃんだよ、いへり言ってもわかんねえのかあ！」と、洗面器やひしゃくでコボンとぶんぶん回された。だからおれんちのやつはみんなボコボコで、ひしゃくなんか、カクワンカクワンしてた。

かいぼりの本場は、競馬場の川

(今の京葉道路と船橋競馬の間に川があった)と、競馬場の沼(今の谷津ハイツのところ)だった。

一人でやるときもあれば、「一団連隊」といって五、六人でやる時もあった。オレはオマメ(ガキ仲間)で一番小さいのや小学校前の

子の時から、ガキ大将にせよせよとくっついていて、土や泥や草

で土手をつくっての水の止め方や、おんなじ川でも、大小の沼があるところでも、フナやギンブナ、ラ

イキョウやウナギのいそなところを教えてもらった。水辺に草が垂れ下がっているところや、水草がよく茂り、土手道や水の中の泥や砂があんまり新しくなく、人がや

った形跡もないところがいいのだ

とにかく、見た目と匂いと感してやることを探すのだ。「オレが魚だったら、どこにすみてえか」っていうことだった。

かいぼってかいぼってかいぼりまくる。オマメのおれは、大して仕事ができなくても、エビガニの穴で水が漏れてないか、土手が崩れないか、見回りをした。

体で動物的に覚えたかいぼりを、今度はおれが大きくなって子分を

つれてやった。

水が減ってくると、魚がバシバシやり出すのが見える、音が聞こえる。んだからますますかいぼりに力が入る。

時々、かいぼりに夢中なあまりとめてあった水の圧力で土手がどおーっと崩れて、水がどかあーっと入ってきた。「サブウ、バカヤローッ、ちゃんと見てろって言ったべえーっ」。怒られた犬の鼻にしみ込んだ。

あんまり腹が減ったので湧き水をええっぺ飲んだ。そして、土手道を歩いて帰る時、腹ん中で水

がボケボケいつていた。



これが賢明な利用— ウイズユース“なの”か

写真の場所は、谷津パークタウンの前。通称「芝生広場」の東側。れっきとした干潟の一部である。

ここはかつて、京成電鉄・谷津遊園がゴミ捨て場にしていたところ。ありとあらゆるゴミの——。おとなが三人がかりでも持ち上げられないコンクリート、鉄骨、シート、釜、鍋、人形、大小の動物の死骸や骨や毛、茶碗、海軍着、サンダルや草履、ビニール類や各種コップやビン類等々、挙げきれないほどのいろんな物が続々——。

まだ谷津遊園があった頃、何度も京成と交渉したが、いくらやっても罫が明かないので、「現物証拠」として園長室へ持ち込み、ジュータンに展示もした。その後、谷津干潟が国設鳥獣保護区になり、国と県と市の協力のもとに、公害防止事業団(今の環境事業団)による整備事業が始まった。

工事の前に、市と公害防止事業団にこれらのゴミ建設廃材の撤去をお願いした。しかし、両者ともナシのつぶて。そのみか、谷津干潟の環境保全のための整備が、その工事で使った残材を干潟に投げ捨ててもいい。

写真の奥、草の下はゴミなのだ。捨てて砂を被せてあるだけ。波に洗われて次々にその姿を現している。(写真は一九九六年九月二日現在)

今年、習志野の埋立地の芝園地区で3種類の渡り鳥が繁殖しました。コアジサシは、4月中旬頃、オーストラリアやパプアニューギニアから日本へ、そして谷津干潟へ渡ってきます。シロチドリ・コチドリはシベリアやカナダから。つまり、北と南の鳥が谷津干潟や埋立地にやってきて、4月から7月にかけて、同じところに卵を産み育て、そしてまた北と南へ分かれていくのです。

コアジサシは5月中旬頃から、またシロチドリとコチドリはそれより約1ヶ月早い、4月の中旬ぐらいから卵を産み始めます。

3種とも、本来は海辺や川原など、砂利や小石、あるいは砂地に、小さな凹地をつくって卵を産みます。でも、巣とは言っても草やワラなどは全く使いません。

いまから20年近くも前、習志野の埋立地に何もなく、埋立直後の砂と貝殻だけの砂漠のような時には、約2千5百前後も営巣しました。現在の袖ヶ浦・秋津・香澄・茜浜や芝園にはとても大きなコロニー(集団営巣地)があったのです。しかし、やがて、開発とともにその営巣地は次々と姿を消してしまいました。

期待どおり、そして調査開始4月初旬、芝園地区をパトロールしながら、長年の経験から、おそらくここにコロニーをつくと確信しました。

とは言っても、そこは、大小の砂利を敷き、平らにならして薄くコイルタールを流し、仮設駐車場としていたところ。あちこちに大小のコイルタールの剣がれた箇所ができていました。

その剣がれて石がむき出しになり、白っぽくなっているのが営巣の条件と考え、巣をつくりやすいように少しずつタールを剣がして小石を出しておきました。コロニー用地は道路をはさんで東西に2区画できたのです。

やがて、コアジサシのオスが小魚をくわえてメスに求愛ポーズをしているのが確認されました。メスが魚を受け取るプロポーズOKです。その後、コアジサシの数は20〜30羽になっていきました。

調査の記録は5月16日に開始され、8月6日まで21日を要しました。

またまた出版!! 谷津干潟の本

小学校入学前後の子供たちへの読み聞かせ用の絵本
 小暮 正夫・作
 渡辺あきお・絵
 定価 千二百円

いきかえった 谷津ひがた



三郎が幼いころ、干潟とその周りで遊んだことや、谷津干潟が現在のようになるまでの物語。

コアジサシ・シロチドリ・コチドリ 営巣数 (96芝園コロニー)

	東地区	西地区	計
コアジサシ	104	46	150
シロチドリ	43	8	51
コチドリ	0	2	2
合計	147	56	203

卵とヒナの成長

コアジサシとシロチドリは大体一つの巣に卵が3個、コチドリは4個、3種とも同じような巣の形状です。

卵からヒナに孵るのも約3週間ぐらいですが、コチドリは今回、孵化に26日かかることが確認されました。

卵は昼は太陽で、夜や気温が低いときはオスとメスが交代に抱いて温めていました。

親は、卵が均等に温まるよう巣の中で卵を転がしたり(転卵)、夏の太陽があまりにも地面の温度が高くなると、抱かずに、卵の上に立つようにして日陰をつくってやります。

それでも暑いときには、親は自分の体を海水等で濡らしてきて、卵を冷やすようにします。

シロチドリとコチドリはヒナになると、次の日ぐらいにはスタスタ小走りに走り、その姿はまるで小さいなダチョウのようです。

それに比べコアジサシは、飛べるようになるまで3週間以上かかり、その間中も、また体が親と同じぐらいになっても、親から口移しで魚をもらい続けます。だから、野犬やカラスといった外敵にやられる度合いは、コアジサシのほうがはるかに高いわけです。

それに対してシロチドリとコチドリはヒナになってからは全くと言っていいほど親から餌をもらいません。少なくとも、それを見たことはありません。

繁殖調査



繁殖期間中、コロニーと谷津干潟の間をコアジサシは頻りに往たり来たりしていました。ヒナの餌になる小魚を取りに行くためです。クチバシにキラキラ光る小魚をくわえて飛んでいる光景が毎日見られました。

無事、ヒナ達が成鳥になると、コアジサシは9月初めから中旬にかけて群をつくってオーストラリアや東南アジアへ、シロチドリやコチドリはシベリア方面へ帰っていきます。

96年度 調査と観察から

シロチドリは谷津干潟で一年中見られることを考えると、芝園で孵ったヒナが谷津干潟に住み着いているのか、あるいは渡っていったのか、固体の調査はまだできていません。

繁殖期前、そして後にも、「空巣」といって、卵を産まないけれども、巣の形、凹地状の穴を掘る。が、繁殖前のほうが多い。

6月20日、赤とんぼの大群が飛来。埋立地や市の湾岸部では過去にもこういうことが何度かあった。

カラスが卵やヒナを狙い始め、時々卵やヒナをくわえていった。カラスがコロニーに侵入すると、コアジサシは東になって一斉に攻撃に向かい、追い払うがかなわぬ。カラスはJR京葉線の電柱や高架線、南側の建物の上に止まってコロニーをうかがっていた。

コロニーは平らなため、雨の日は水はけが悪く、10以上の巣の卵が水没してしまつた。そのうちの幾つかは、凹地のすぐ横に引き上げた形跡があった。

野犬が4〜5頭出没するようになり、鼻を地面にすりつけて匂いを嗅ぐようにしてゆっくり歩いてきた。昼間は私たちが追い払っていた。すると今度は、夜中あるいは明け方に姿を現すようになった。

卵からヒナが出始めるとき、まず般にひびがはいるが、耳を当てると中でピーピー鳴く声が聞こえる。やがて小さな穴があき、ヒナの小さなクチバシが殻をつついて出ているのがわかる。そして、盛んにモゾモゾやうて殻が割れ始めると、大体は頭から出てきて、後は一気に体が出てくる。そして、太陽と空気に触れると、半ばビショッといいた小さな体が、大きく、ふっくらとしてくる。

餌の小魚は、イワシ、ハゼ、エビなどが確認されているが、イワシ類が最も多い。また、コロニーの中で何匹も、ときには真新しいものも拾ったが、どうやら一度落とししたもの。コロニー内のシロチドリとコチドリは小さな羽虫みたいなものを食べ続けている。しかし、成鳥になり、干潟に来ると今度は一転してゴカイなどを食べる。

コアジサシはヒナの体の大きさに応じた小魚を与えるが、ヒナは自分の体の半分以上の長さ(7cmぐらい)の小魚でも呑み込んでしまう。ときには、呑み込みきれなかったしっぽの部分が1〜2cm、クチバシから出ていて、途方にくれているようなかわいしいシーンも見られた。

巣の直径は7〜10cm程度。卵の位置は必ずと言っていいほど、転がった外へ離れていかないように、とがったほうを内側にしてある。また、

「レッドデータブック」で「絶滅の危機にある」とされるコアジサシの保護のため、私たちはコロニーに、立ち入らないようにとのお願いの看板を立て、一つでも多く営巣できるように住宅(!!)をしたり、野犬に襲われないよう、夜も時間の許す限りパトロールをしました。

また、千葉県企業庁への申し入れや習志野市にも協力をお願いしました。特に、習志野市は7月末の花火大会の駐車場としてこの土地の使用を予定していました。他の場所に駐車場を確保。それによって、たくさんヒナと卵がつぶされなくて助かりました。関係各位のご協力に深く感謝します。

最も密着度が多く、全体の塊の広さが最小になるように置かれている。営巣が増えつつある頃、約2km東の幕張地区のコロニーがカラスに襲われて全滅し、親鳥も殆ど姿を消した同時期、芝園のコロニーにコアジサシの数が急増。幕張にいたコアジサシが芝園に移動したと思われる。

3種とも、ヒナ達は、野犬や人が近づくと、石ころや草の下、あるいは草むらの中や凹地状のところ身をすくめて隠れている。外敵が去り親が鳴くと、トコトコと親のほうへ走っていく。人間にはわからないいろいろな意味の声があるのだろう。

とつぶりと日が暮れる頃、コアジサシは一団となってコロニーの上を高く、低く群舞し始める。その様はまるでマスゲームのようだ。しばらく舞うとだんだん低く、静かになる。干潟でハマシギの群舞は幾度となく目にしたが、コアジサシのこのような光景は初めてだ。

繁殖期の終わり頃、コロニーの中と周辺にやたらとヒナのものと思われる羽毛が散乱していた。過去20年の経験のなかで、数百のコロニーと数々の巣と卵を見てきたが、今回のここほど多くの羽毛を見たことはない。おそらく、かなりの数のヒナが野犬の餌食になったと思われる。

8月に入る頃、コロニーには夜、目算にして約2千〜3千のコアジサシが集結するようになった。集まるのは暗くなる7時から8時頃。そして明け方までいる。

おそらくコアジサシは、9月には南への数千kmの渡りにつくため、あちこちに散っていた幾つもの群が、より大きな群をつくるために次々と集結し、かなりの規模の集団となって渡っていくのであろう。

私たちが一度はその渡り行く群を見た。コアジサシのいる、そう習志野で産まれ、育ち、成長して渡っていったオーストラリアへ、そのコアジサシの姿を見に行きたいものだ。

もし将来、コロニーを人工的に東京湾のどこかにつくるとすれば、水はけを考えて中央部を少し高くし、石はできるだけ小さく、または砂にしたほうがよい。

何よりも難しいのは、いかに草の侵入を防ぐかである。この3種の鳥とも、多少の違いはあるが、草が多くなると、特にコアジサシ、次にシロチドリは営巣しなくなった。私達の除草作業は、焼け石に水"のようだった。

少しずつ表面のタールをはがし小石をむき出しにしておくと、そこに次々に巣をつくっていく。ただ見守るだけでなく、鳥のために何をすればいいのかを考えた。

ふかんど通信 No.37

「ふかんど通信」を配布してくださる方(藤崎・大久保・本大久保・新築地区) ☎0474(51)5044 森田までご連絡下さい。

ふかんど通信

発行 谷津干潟愛護研究会
編集 中村容子
☎275-0026
習志野市谷津3-29-11-102
Tel/Fax 047-451-5044



楽園の子供達

37 絵と文 森田三郎

どもり

小学校の三年ぐらいの頃、オレはすごいドモリだった。学校に少しドモる子がいて、からかい半分面白半分で真似たのだ。

近所のおじさんやおばさん、オシヨ取りやかいぼり仲間、ふかんどへ泳ぎに行っていた力キ大将の仲間が面白がるものだから、オレはますます調子に乗って、オーパーに、身振り手振りを加えて、一所懸命ドモリの真似をしていた。ところが、だんだん困ってきたことに気がつき始めた。ちゃんとしゃべろうとしても、ドモっちゃって言葉が出てこなくなった。話している途中もそつだが、とにかく最初の言葉が出てこなくなると、ドモリがだんだんひどくなっていた。

たとえば、おつかいに行っても煮干しの「こ」、鯉節の「か」が出てこない。んで、しよつがないから、「ロッケ屋や八百屋のおじさんやおばさんに、オレは指さして、「おばさん、んとねえ、あれちようだい」なんて言っていた。

そんなのはまだ何とかなってい。駅で切符が買えなかった。昔は、窓口で駅名を言ってお金を出していたからだ。オレんちは京成大神宮下で、津田沼の「つ」が出てこない。さあ困った。口の中、でモグモグ言って、その勢いで「つ」と声に出そうとしたり、手を振るなり、足で地面を踏んで体で調子と勢いをつけて、セイノーセイ！で、「つ」を出そうとしていた。

そんなもなかなかった。んで、言える言葉で言えない言葉表現した。「おじさん、船橋のお、あつちのほつ」と。すると駅員が、「じゃあボク、津田沼？」と言った。「うん、そこっつ」。

手の中で10円玉が汗をかいていた。朗読の時間は地獄だった。教科書を持って立つたまんま言葉が出てこない。皆が笑う。ますますダメになる。

子供ってどうか、障害のある子はちょっとしたことでも、人の口や目つきに、バカにされたり朝りに、ものすごく敏感だ。時々、先生がオレの番をはずしてくれ。ほつとしたのが半分、子供心にも、「これはアンフェアなんだ」というのが半分。

「ドモリ、ドモリ」と学校ではやし立てられ、貧乏だったオレの服の継ぎ目なんかにはホワキを突っ込まれたり、こつまわされた。踏切へ行って、死のうかと思っ。チンチンという音を聞きながら、「オレがここで死んだらあ、かあちゃん、新聞配達一所懸命してんのかなあ。雨ん中、番傘とゲタだもんなあ」と思い浮かべた。

ドモリを直そうと思つたのは、給食費を、払えないから待ってもらえと母に言われて、それで職員室へ行ったときのこと。顔を真っ赤にして、言葉が出てこないオレを、その先生はじつとやさしく、黙ってオレの言葉が出てくるのを待っていてくれた。オレはうちに帰って泣いた。うれしくて、そして思った。「……いつか、こやって、ちゃんと話を聞いてくれる人に、ちゃんと話ができるような人間になろう」と。



込まれたり、こつまわされた。踏切へ行って、死のうかと思っ。チンチンという音を聞きながら、「オレがここで死んだらあ、かあちゃん、新聞配達一所懸命してんのかなあ。雨ん中、番傘とゲタだもんなあ」と思い浮かべた。ドモリを直そうと思つたのは、給食費を、払えないから待ってもらえと母に言われて、それで職員室へ行ったときのこと。顔を真っ赤にして、言葉が出てこないオレを、その先生はじつとやさしく、黙ってオレの言葉が出てくるのを待っていてくれた。オレはうちに帰って泣いた。うれしくて、そして思った。「……いつか、こやって、ちゃんと話を聞いてくれる人に、ちゃんと話ができるような人間になろう」と。

海一つ

2年前、日本海は、ロシア船・ナホトカ号の重油流出で海岸が汚染され、毎日、油にまみれた海鳥や現地の様子が報道されていた。日本海も東京湾も、太平洋も谷津干潟も海は一つなんだよ。私たちがじつとしていいの？ 谷津干潟だけよければいいの？ そんなせき立てられるような思いで、重油拭き取り用のタオルの寄付を呼びかけた。反響は凄まじかった。近隣市はもちろんのこと、東京、埼玉からもダンボール箱に詰まったタオルが続々と届いた。当初予定していなかったカンパまで……。

集まった約1万枚のタオルと、リサイクル石鹼を輪島市へ、支援金25万円を三国町重油災害ボランティアセンターへ送った。物資の配送にあたっては、アート・コーポレーションが送料無料で現地まで届けてくれた。一市民である私たちの呼びかけに大勢の方が協力してくださり、行政は谷津干潟自然観察センターという場所の提供など諸々の協力最後に企業が谷津干潟からの多くの方々の熱い思いを日本海に届けるという協力をしてくださる。これはまさに「パートナーシップの具現化」と言えますよ。 「日本海は元気です！」。先般、ボランティアセンター解散のお知らせが届いた。(中村)

ふかんど通信

発行 谷津干潟愛護研究会
編集 中村容子
〒275-0026 習志野市谷津3-29-11-102
Tel/Fax 047-451-5044

楽園の子供達

38 絵と文 森田三郎

ノミがきたからあー!

子供の頃、妹の玲子は、そうぐずって、夜になるとよく泣いていた。

「ああちゃんか、ちようか。いまかあちゃんがつってやんかん。おあーよちよち……」と言いなながら、玲子を抱き上げた。あっちこち転がしながら、頭を、いい子いい子してはノミをとってやっていた。

オシは、玲子をちよつと妬ましくも思ったけど、「そんなえっべえノミがきて喰って寝れねえかなあ」と、ねむてえ目をしながらそれを見ていた。

あと思いながら見てたけども、なんだかノミを喰ってるみてえな感じだった。

かあちゃんは、オしんともよくノミをとってくれた。夜、なんだかふつと目が覚めたら、かあちゃんがオしのパンツをはがして、オチンチンやヘリのところからノミをとってた。

弟の四郎なんか、「かあちゃん、オしんともあ、ノミとってくんねえか」なんてねだってた。

でもオしは、玲子みたく、ノミに喰われてねらんかったこととはない。だから、きつと、玲子の体は、ノミが好きか、喰いやすいんじゃねえかと、そんなことボンヤリ思ってた。

ノミはパンツのゴムの縮んだところや、えりの内っかわ、服の隙間なんかが好きだ。よくかあちゃんが、「ほれえ、三郎、見る。んなあ、ちゃんとノミがいるべえ」と、指さして教えてく

れた。かあちゃん、めっけんのも うんまかった。

夜の七時頃なんと、オしたちはグロッキーになって寝ちゃう。何回かかあちゃんは、奥のふんが積んであんどこ指さして、「いいかさぶう、あすこからな、夜なんと、ノミが次々と出てくんだかな」と教えてくれた。

んでオしは、へえ?と思つて、ふんとんと置のどこを見張つたら、ほんとにノミが出てきた。

よく覚えてるのは、オしんちは毎日ちかや吊つて、ノミ取り粉をシュッシュッとまいて寝た。オしはカヤン中でおんもしるがってノミ取り粉もまいた。カヤ吊りは自分でやりたかった。なんでかという、カヤン中、オンジョやドロボー(トンボ)やセミを放して飛ばすからだ。そんなのが、カゴより広いカヤの中であっちこち飛んでんのを見んと、すげえ気分よかつた。

でも、すぐにおちゃんやかあちゃんに見つかつて、ホウキやハタキ、枕でぶんなぐられて、セミなんかみんな逃がしちゃう。オしはくやしくなつて、またガツカリした。

カヤと飲み取り粉とふんとの匂いの、子供の頃の真夏の夜。そしてかあちゃんが、「ノミがきたからあー」とぐずって泣いている妹のノミをとっている姿、いまから見ると、何か大切なもののように思える。

大きくなってからも母から聞かされた玲子の、「ノミがきたからあー」は、オしんちの「伝説」となっている。



木下恵介監督を悼む



きれいだなあ……

かあらあすうー

なぜなくのー
からすはやあまあにいー

映画「二十四の瞳」。大石先生を尋ねて行ったものの、みんなくたびれ、心細くなってきて、とほとほと歩いていく時のシーンの、バックミュージックである。知らないうちに、涙が出ていた。

ふるさとの「ふかんど」。干潟での25年間。私に、平穏とやすらぎ、熱き力と励まし、そして慰めを与えてくれたのは、知識や理論、あるいは理屈などではなかつた。

子どもの頃の、土、草、木、水、葉っぱや、小川や沼や田んぼ。菜の花畑や雑木林や草むらそして遠浅の海などの、その生き物たち。その感触、匂い、情景だった。動物的というか、生物学的な感覚であり、その想い出である。
そんな「心の泉や地下水」、

「心のオルゴール」を呼び覚ましてくれたのが「二十四の瞳」である。

生涯教育だ、生きがいた、というも、その特効薬や王道もない。

いま、ここから、この身のままで、あるがままでいい。この平凡な、ありきたりの一日一日を、大切に生きていくこと。

そんな私に、「新しい心の地平線」を与えてくれ、思い出のどれもこれもが、みんな意義があったのだと、そう想わせてくれた木下恵介監督とその作品。

敬慕と感謝、そして、ある懐かしき想いをこめて、氏のご冥福を祈ります。(森田三郎)



岬の分教場

鐘の横に「苗羽小学校田浦分校」とある

新たな挑戦 市民運動を県政へ

森田三郎さん 県政へ 中村ようこさん 市政へ

「市議の限界」

中村 今度、市議会から千葉県議会へ転身を図るようですが、なぜ県政を目指すのですか？

森田 ウーン、一口に言えば、市議会議員の限界ということかな。僕がいままで取り組んできたなかで、例えば谷津干潟の問題一つとってみても、習志野市だけで解決できることは限られているんだよ。

なぜなら、谷津干潟は単独ではなく、水路を通じて東京湾につながっている。東京湾は太平洋につながっている。だから、いまちょうど正念場を迎えている三番瀬がもし埋め立てられたら、谷津干潟に及ぼす影響は計り知れない。悪くはなっても、決して良くはない。

海はひとつだ

これまで25年間、谷津干潟でゴミを拾って、「海は一つ」を実感したね。東京湾がきれいにならずして谷津干潟はきれいにならない。太平洋がきれいにならずして東京湾もきれいにならない。

それに、東京湾には関東各地から流れ込む川が幾つもある。上流で捨てられたゴミが東京湾に流れ込み、谷津干潟にも入ってくるんだよ。だから、僕たちのゴミ拾いはとてもグローバルインターナショナルなんだ。

中村 三番瀬の問題は、県の埋め立て事業だから、市議では力が及ばないってわけ？

森田 そのとおり。行政区域が違うから、習志野市が船橋市・市川市の問題に口出しするのは、越権行為だと言われる。

三番瀬埋め立て「谷津干潟に悪影響」

密接な関係を指摘



見直しへ検討会
習志野市 三番瀬埋め立て計画

中村 東京湾ということになる、三番瀬だけじゃなくて、もっといろいろあるんじゃない？

森田 あるある。芝園の人工海浜は県の事業だし、第二湾岸道路や富津から久里浜への湾口横断道路は国が計画している事業なんだ。その湾口横断道路にマッチングさせるような形でフェニックス計画（ゴミ埋め立て処分場）も出てくる。

な建設費の回収のために通行料は高いし、当初の見込みの半分しか利用されていない。このうえまた湾口道路なんて本当に必要なのかなと思うよ。建設費の回収なんて到底無理だね。

所詮は、ここにあるといいいな程度の発想で地図の上にサーッと線を引いてそれで造ろうっていうことだろうね。まあ、ゼネコンとそれに関わりのある議員たちがオイシイだけよ。

中村 県では三番瀬の埋め立てで下水処理場用地を確保したいようだけど

森田 市川市側に予定の江戸川左岸流域下水道だろ？ それだって、なんで千葉県でも一番北のほうの関宿や流山、野田などの下水を、わざわざ管渠を通して東京湾までもってくるのか？ 延長60キロだよ。何千億単位の金がかかるんだよ。

公共事業を見直し

中村 太い管渠を地下に深く通すにはすごい建設費がかかるのよ。

森田 そんなことしないで、地域域に小さな下水処理場をつくって処理して、きれいな水になった水をまたほかの用途に使えばいいじゃないか。例えば、トイレに流す水は何も上水道でなくたっていいんだしね。

中村 私は、上流の各家庭がそれぞれ合併処理浄化槽を設置して、処理した水を川に流していけばいいと思うんだけど。上流のほうにはまだ敷地の広いおうちがたくさんあるから。何年もかけて広域下水道をつくるよりも手っ取り早いし、まず経済的よ。

森田 そうだね。そうすれば、川には生き物も住み着くし、植物も繁るだろうし、まず水の流れそのものが私たちの目に触れるからね。

われわれは、蛇口をひねればザッと流れる水に慣れきって、それが当たり前だと思って暮らしている。そんなことで「水環境を守りましょう」とか、「水を汚さないで」とか言っても、ちっともピンとこないやね。

99年2月 朝日新聞
水は生きものだ
昔は、田んぼや畑があって雨水が浸透していたから地表を流れ去る水の量が少なかった。けど、宅地開発がどんどん進んで表面がみんなアスファルトやコンクリート化で、雨水は下水道に流れ込むしかない。それで、昔は起こらなかったような洪水が頻繁に起こるようになったんだ。東京などで

よく起こるいわゆる都市型洪水。上流の人はいいけど、下流部の習志野なんかはたまらない。

だからってんで花見川広域流域下水道なんて大きな下水管を通すよりも、もっと手前ですんなり処理施設を幾つか造ったほうが水循環の面でもよかったと思うよ。

三番瀬の計画は30年も前のものなんだから、この際、白紙に戻して、新たに検討しなおすべきだね。

中村 環境ということでは？

森田 限らないゴミの資源化だね。いまのようにゴミを出し続けていたのでは、処分場がいくらあっても足りないし、ダイオキシンの問題もある。いかにゴミを出さないで再利用するか、一人ひとりが工夫するだけじゃなく、行政も積極的に企業に働きかけて、その態勢づくりを進めていかなきゃいけない。



動く図鑑

例えばゴミの焼却灰をブロック化して再利用するには、使用可能な強度と性質を持たせ、安定供給するにはやはり広域でなければバランスがとれない。それから、地下水だってその流れに境界はない。河川も、一地域だけがいくらきれいにして、上流や下流で汚していたのでは意味がなくなるよ。

騒音や排気ガスは境界がない最たるものだよ。何しろ空を伝わっていくんだから。やっぱり広い範囲で対応しなくちゃ。こんなこと言ったらもうキリがないよ。

タダなものはない

中村 ゴミといえば、スーパーのレジ袋。あれはタダだと勘違いしている人が多いけど、実は商品の値段に上乗せされているのよ。だから、買い物袋を持参してレジ袋は要らないという人にはスタンプを押してくれるんだけど、それよりも、1枚5円とか10円とか有料にすればいいと思う。そうすれば、スタンプを押す台紙も要らないし、手間も要らない。時間的にも早い。台紙だって、印刷代とか紙代で費用がかかかって、それがまた商品の値段に上乗せされてるんだから。

これは、どこか勇氣を持ってやってくれるスーパーがあればいいと思うんだけど、なかなかやってくれないのよ。それこそ広域で「スーパーのレジ袋は1枚〇〇円です」ってことになればいいと思うわ。

そうすれば、あの袋をゴミ袋として使っても、一枚10円だから、もっとゴミを減らそうとか思わないかなあ。

森田 女性議員のなかにも、あれはタダだと思ってる人が何人かいたよ。商品価格に上乗せされてるなんてわかっているんだね。

「人間サイズ」のまちに

中村 福祉のほうは苦手の？

森田 そんなことはないよ。確かに、介護とかいうことはあまり一般質問してないけど、駅にエスカレーターを設置するように働きかけたり、歩道の傾斜をなくすように提言したりして、実際に改良されたところがいっぱいある。車椅子でもどろんどろん利用できるような道路、バス、鉄道、バリアフリーで弱者にやさしい街づくりを目指している。それから、福祉タクシーのこともやってきたし、鍼灸治療が受けやすくなるようにもしたし……。

ただ、僕は、皆さんのようにカッコよくやれないんだなあ。

中村 そのほかには？

森田 いま学校が大変でしょ？ 授業にならない学級崩壊だってあるというし……。僕は、詰め込み教育じゃなく、もっと人間性を重視した教育環境にするべきだと思うよ。一クラス25人から30人程度でね。

それから、道路のこともずいぶんやってきた。国道14号や東関東道などの交通の安全と円滑化を図らなければならぬし、環境対策も大事だし……。

中村ようこへバトンタッチ！

ところで中村さんは、重油災害のときには日本海にタオルを送ったり、雨水利用とか、牛乳パックの回収とか、オンブズマンとか、いろいろやってきてるけど、市議会ではどんなことを？

中村 まず森田さんのように、市民の立場で発言し、市民の視点でチェックし、市民に情報を公開し、市民とともに活動する議員になりたい。そして「ならしの森」の保存とか、自転車OSネットワークとか、森田さんによく相談して実現させてもらったように、市民の小さなつばやきにも耳を傾ける議員になりたいです。

それから、女性議員をもっと増やしたい。

森田 谷津干潟の保存運動だけじゃなく、職員の勤務時間の問題や議員定数の削減、選挙公報の発行での援護射撃もすこかったね。

中村 お恥ずかしいです。とても森田さんと同じようにはいかないでしょうけど、とにかく市民の立場を大事にすることが最優先だと思ってます。ところで森田さん、本を出版されたんですね。

森田 出版なんて立派なものじゃないけど、報道関係に送る「クリン作戦のお知らせ」に書き添えてた文章を一冊にまとめたんだよ。毎月2回ずつ発送してた、その時々干潟の様子や僕の気持ちとかの随想録みたいなものかな。

中村 これから県議会と市議会と、ダブルで選挙に挑戦するわけね。お互いに頑張りましょうね。

森田 二人で、風通しのいい県政、市政を目指そう!!



森田三郎

ふかんど通信

発行 谷津干潟愛護研究会
 編集 中村容子
 〒275-0026 習志野市谷津3-29-11-102
 Tel/Fax 047-451-5044

楽園の子供たち

39

絵文 森田 三郎

砂っば

「砂っば」。みやんち(宮の内)のみんなはそう呼んでいた。ふかふかした、さらさらした砂んところ、ということ。

畑であろうが、みちであろうが、畑の中のみちであろうが、みんなそこいらへんは、砂地だらけという感じだった。

今の東船橋で習志野寄りの一帯だ。東に山崎別荘と運河があり、西に浅間山とお玉が池。その間の砂みちをだらだら上って来ると、高い松の木が並んでるので、はだしんぼうのオレたち。は足が松葉でチクチクして、頭んの上じゃ松風の音がしていた。北がわは宮中と船高の「玉つくり」。南の、遠浅の海(今の谷津干潟の西半分も)が広く光って見えんところは、土手だかみちだかわかんねえような、両側に草が生い茂るだらだらの花輪への下りの砂みちだった。

「砂っば」っていうこの、ま

ん中へんにあつちこつちへ行けん、へんてこに曲がった砂みちがくっつき合った。五叉路があった。「砂っば」ってったって、どこからどこまでと、決まってるなんて聞いたこともねえし、オレたちみんなも知らなかった。んでも、子供ときいよく、「かあちゃんよお、オレ、砂っばん方行ってえ、ギッチョン(キリギリス)とってくんなあ！」って言うつと、「サブウ、かあちゃん新聞配達から帰って来んまでえ、まき割って水汲んでえ、米たいとけよあ」なんて感じだった。

だから、とおちゃんかあちゃん、ガキ大将のマーちゃんも、そんで、「ゴンザ」や「二エム」とキリギリス(みんな屋号)のおじさんおばさんもみんな、だいたい「砂っば」って言えば、てんで勝手にわかってた。

「砂っば」の夏は、畑もみちも、砂が太陽でやけて、すげえ熱かった。イチゴん頃はいいが、

メロンやトマトを腹が減ったんでかっぱらって喰う時は、畑の砂地ん中あ、足首までふつかふつかもぐらせ、「あつちあつち(熱い)」と、「ピョンピョン」とびはねるようになって歩くんだか走るんだかわかねえようにして、できんだだけ作物の葉っぱづたい、草の上を通ってきた。んで、砂みちの草ん中しやがんで太陽と砂で熱くなったメロンやトマトをガブガブ喰った。

「砂っば」は、ギッチョンとキリギリス(ヤブキリ)がええっぺいた。砂っばのどこへ行つ



たって、ギッチョンとキリギリスだらけで、その声がそこいらじゅうでして、聞こえねえところはなかった。ギッチョンは草むらやみちばたんこの草や畑ん中、キリギリスはさういふとこだけじゃなくなって、垣根の木やぶや、木々の茂みにもいて、夕方ん頃から「キリキリキリ」と、うるせえくらいだった。

キリギリスは、ギッチョンよりも一カ月くらい早くの6月に鳴き出す。そんなにギッチョンだ。ギッチョンの音がすると、オレは、「もつすく夏休みだ」と思って、うれしくってしようがなかった。

肥溜めと、麦畑やメロンとスイカとトマトとイモなんかの喰いもの砂っば。

夏の炎天下の砂みち。両側の草むらで「ギーチョン、チヨンキース」とギッチョンがうるせく鳴いてんとこを、「長次郎のおじさんが両手をうしろに牛車を引いて歩いてきた。いたずらばつかしのオレは、会うのがいやでみちばたの草むらん中急いで隠れようとしたら、すぐ脇の低いとこにあった肥溜めん中おっこつちやっつけたっけ……」。

支援ありがとうがとろとろいきました

三番瀬埋立て白紙撤回に”市民権”

大接戦、かたずのんだ各陣営

浮動票集め森田氏祝杯

自民は佐藤氏が指定席継承

「市角氏と平川氏、森田氏、木村氏の四人の票の割合は、タンゴ状態で横一線」うちや佐藤氏の票は、まんべんなく多うだ」。定数に六人が出馬した習志野市選区。投票日の十日深夜、開票会場となった市立旭ヶ丘体育館には、各陣営の選挙関係者が大勢集結し、かたずのんだ開票結果を見守る姿が見られた。二位から五位まで四人の候補の票差が「わずか五百七票」と拮抗(きつぱ)と、最後の最後まで粘り勝負を繰り広げた超接戦を振り返る。

習志野市選挙区

新元現新新新新	58	53	62	47	60	59
自無民無共無無	58	53	62	47	60	59
正三照博静光(選管)	58	53	62	47	60	59
藤田角川村木田	13,616	8,997	8,709	8,594	8,472	2,960
佐藤市平木田	13,616	8,997	8,709	8,594	8,472	2,960



市角氏(中央)と平川氏(右)が挨拶を交わす。森田氏の自宅兼選挙事務所。

低さや、同支持をめぐるとに集った個人タラシ。森田氏選挙区のスワグの通りな田三郎(タラシ)とを走る者数(上)から、苦しい選挙展開する街活動や、団地周辺を基に、まなを練り歩くローラ作戦で追い上げ、夕方が緩やかかかってた。村票を引きた。また、飛木勇氏は、共自にも積極的アピールする離れ票で、票の上層に成功。また、飛木勇氏は、共自、民主など野党候補の自派による自派票の消滅を懸念。市政運営に危機感を募らせ、佐藤氏支持の本陣で首手する佐藤氏、強烈な即答を述べた。

一方、谷津干潟保護運動家としても知られる森田三郎氏(無所属)は、佐藤氏とは対照的に数人の仲間のみを従えた手作り選挙運動を展開。選挙期間中は民生シンジケートを組織した。選挙運動は、干潟の水鳥をかけたカラフルなステッカーが無数に貼られた。さらに、昨年

たつて、ギッチョンとキリギリスだらけで、その声がそこいらじゅうでして、聞こえねえところはなかった。ギッチョンは草むらやみちばたんこの草や畑ん中、キリギリスはさういふとこだけじゃなくなって、垣根の木やぶや、木々の茂みにもいて、夕方ん頃から「キリキリキリ」と、うるせえくらいだった。

キリギリスは、ギッチョンよりも一カ月くらい早くの6月に鳴き出す。そんなにギッチョンだ。ギッチョンの音がすると、オレは、「もつすく夏休みだ」と思って、うれしくってしようがなかった。

肥溜めと、麦畑やメロンとスイカとトマトとイモなんかの喰いもの砂っば。

夏の炎天下の砂みち。両側の草むらで「ギーチョン、チヨンキース」とギッチョンがうるせく鳴いてんとこを、「長次郎のおじさんが両手をうしろに牛車を引いて歩いてきた。いたずらばつかしのオレは、会うのがいやでみちばたの草むらん中急いで隠れようとしたら、すぐ脇の低いとこにあった肥溜めん中おっこつちやっつけたっけ……」。

ふかんど通信

発行
水と緑の会
森田 三郎
☎275-0016
習志野市津田沼7-1-10
Tel/Fax 047-454-5335

楽園の子供達

41 絵と文 森田三郎

巣つこ

おれは子供ん時、木の上に巣つこを作った。おれだけの、秘密のかくれ家だ。だから誰にもわかんねえようにこつそれひとり、んで、心をわくわくさせながら作った。

ターザンか土人みてえになりたかったんだ。巣つこの中にいるとおれは、葉っぱや木、そしてその木に来るセミ、トンボ、まわりをとぶチヨウチヨなんかが、ものすごくうれしく、仲間みてえに感じた。

枝や幹をアリンボたちが、登るやつと下るやつが急がしそつに歩いたり、デンデン虫がゆつくりゆつくり歩くのを、おれは見ていた。誰にもわかんねえ、見えねえ巣つこは、葉っぱがえつぱえ繁る。

夏じゃねえとだめだ。

あんまり高くてもおつかねえし、だからといって、低くてもわかつちゃう。毎日のように一日何回もやたらといろんな木に登った。だから、巣つこを作りやすい、いい木は、んで、木の枝の具合でここに作つたらいいかおれはちゃんと知っていた。

材料のムシロやナフは米屋から、木は竹の垣根や扉の板っぱは、すぐ前の墓場の塔婆。ゴザも畳屋のゴミ箱から持ってきた。

巣つこの木は、墓場のアオギリの木か、広い干潟の見える榎だ。でもおれは、榎の方にえつぱ作つた。アオギリは、第二のかくれ家で作った。時々坊さんに見つかつて、下駄を持っていかれた。下駄は大切だったからかあちゃんに、「あやまって返してもらってこい」と怒られた。おれはおつかなくて

しょうがねえのをがまんして「もう、しません」と言つて返してもらった。でも、おれは又作つた。

坊さんは、おれんちにおし込んできたこともあった。坊さんだけじゃねえ、近所のいろんなおじさん、おばさんがよくおし込んできた。

「おたくのサブちゃん、野放しにしないでくれ！」なんて言つていた。

巣つこにいる時、おれは心が落ち着き、うれしくて幸せだった。うれしい時、悲しい時、そして泣きながら巣つこに登った。

木だつて、手や足が木に触つただけで、木登りの調子がいいか悪いかおれにはわかつた。

木の皮や葉っぱの匂いをくくんくん嗅いで登るだけでうれしかった。まわりの、そして足の下の木の間、うち(家)、田んぼ、沼、ヨシ

野がよく見えた。その先に、広い、潮がねえ時は黒くて、潮があんとキラキラ光る遠浅の海があった。夏なんか、ムクムクとしたまっ白い入道雲と、その下に帆かけ船が見えた。巣つこの榎には、ゴマダラチヨウがとびかい、タママシもつれしそつにとんでいた。ニイニイゼミも榎が大好きだ。オンシヨもドロボーもヒラキも、んで、アカチンも来て、おれはうれしかったし、でつけえ声で、嵐の時も歌をうたつた。



谷津干潟クリーン作戦31年

写真はバラ園の駐車場前の干潟。谷津遊園のゴミ捨て場だった。

カン・ビン・動物の骨と手・浮き袋・ゴムボート・ビーチサンダル・注射針・海水着・鉄骨・コンクリート・七輪

ナベ・カマ・シート類・遊園地の施設の各種残骸・玩具類・ガラス・潮干狩りの道具類……

以前、公害の防止事業団(現在の環境志野市と事業団にこれら産業廃棄と、それを隠す為に捨てられた残土を撤去するように私達は申し入れた。

が、市も事業団も、そして干潟の管理者となった環境庁も、見て見ぬふりだった。

しかし、このおびただしいゴミ捨て場も「地図では干潟」なのだ。

かつての谷津遊園開設が大正14年なら、閉園までの昭和57年までの58年間。ずーっと長い間に京成電鉄谷津遊園は、目の前の谷津干潟(昔、土地の人

は「ふかんど」と呼んでいた)を含め、遠浅の海を潮干狩りなどで利用していたのである。恩恵を被っていたのである。そして昭和57年に閉園し、住宅公団に売却する時、一挙に大量に遊園地のゴミをここに出した。

遊園地がオープンしている時も、私達はフリーパスでクリーン作戦を展開した。鳥獣保護法という法律は何の為にあるのか。役所と役人のその面子や立場の為ではない。このゴミと残土が、谷津干潟の環境に、景観に、そして何よりも干潟の生き物たちの為に、何の役に立っているのか。

谷津干潟クリーン作戦は、鳥獣保護区だから、ラムサール条約登録地であるよりも、私にとってここは、「ふるさと」だからだ。

このゴミの下に、子供の頃、すっ裸で、素足で遊んだ遠浅の海、その想い出があるからだ。

谷津干潟クリーン作戦。ボランティアや、環境保護だからではない。ただのゴミ拾い。いここ。いろんな遠回りをして、こつこつという心境になるまで、31年かかった。

長い間埋もれていたゴミ



いま、県議会では

議員も 議会も そして行政も 県民の為の、手段、道具、手だてである

平成18年9月の
定例議会での一般質問

- 1 三番瀬問題について
三番瀬の再生計画というが、県は、三番瀬の今ある浄化及び再生能力をどのように生かしていくのか。
- 2 食品の安全と安心について
① ポジティブリスト制度の施行に伴って、県はどのように取り組んでいるのか。
(健康福祉部、農林水産部)
- ② 食品表示ウオッチャーの活動状況はどうか。
(農林水産部)
- ③ 食品の安全性について、県はどのように取り組んでいるのか。
(健康福祉部)
- 3 バイオマス対策について
バイオマス活用推進への県の取り組み状況はどうか。
- 4 道路問題について
国道14号の安全と円滑のためにどのように取り組んでいくのか。
- 5 準工業地域での住宅建設について
準工業地域等でマンション等の住宅建設が進められているが、良好な住環境の保全のために、県として何らかの対策が必要でないか。
- 6 水と緑の空間の充実について
ヒートアイランド対策のひとつとして水と緑の空間の充実が必要と考えられるが、県はどのように取り組んでいるのか。
- 7 選挙における違法ポスター等の撤去について
選挙の直前や選挙期間中に、管理者の許可無く道路、歩道及び立木の植込みなどの公共用地に候補者や政党等のポスターや看板等が掲示される可能性があるが、これに対し、選挙管理委員会として撤去すべくどのような対応をとるのか。

<17年度6月>	<18年度当初>	<増減額>
県税 5,920億円	→ 6,561億円	+641億円
地方交付税 2,208億円	→ 1,610億円	▲598億円
臨時財政対策債 595億円	→ 545億円	▲50億円
—国から削られた金額		マイナス 7億円

地方分権・地方の自立とは言うけれど...
その中味と「矢印」で「天国と地獄」

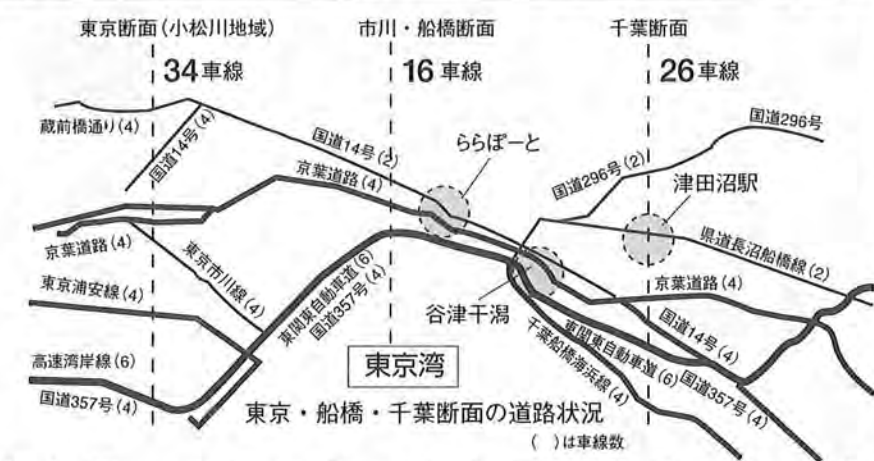
県の税収(つまり予算に当てたいお金)が増えても、その分、いやそれを上回るお金が国から減らされるのです。

これではいったい誰の為の、何の地方分権、地方の自立でしょうか。地方の自立とは何なのでしょう。

国会議員(特に県内の)がこれを知らないはずはありません。でも、県選出の国会議員は、会合やパーティなどの公の席では誰一人この実態を言わないのです。

言うまでもなくこのシワ寄せ、内容、そして影響は、わが習志野市にも及ぶのです。いやもう出ています。

新たな道路建設よりも既存道路の拡充を!



つくれつくれでいいの!
第二東京湾岸道路(高速6車線)
湾口横断道路、第三国際空港など

現在県は、第二東京湾岸道路の建設計画を持っており、又、湾岸道路(国道357)や千葉街道(国道14号)の渋滞解消の為に(仮)湾岸船橋インターの建設計画を進めています。

でも、左の図を見て下さい。わが習志野市を取り巻く東京方面への道路状況です。東京湾までの南北の幹線道路の車線数です。習志野市域に比べて、隣の船橋市は26対16で何と10車線も少ないのです。人口も習志野市が16万人弱、船橋市が約57万人、市川市が約46万人です。

これでは渋滞しないはずはありません。結論を言えば、(仮)湾岸船橋インターの建設は、習志野市がその「ツケ」を払わされているのです。

千葉街道にしても、県内でも多くの人口がいる、市川—船橋—習志野市まで約120万人が住んでいるのに、いまだ二車線です。千葉街道は、海側へも内陸側へも使い勝手のいい便利な道路で、生活・幹線道路であるにもかかわらずです。

私もタクシードライバーの経験を生かし、県に、主要な交差点での右・左折レーンの設置を進めてもらっています。

指名競争入札から一般競争入札したらなんと

落札率20%低下

県が発注する数多くの公共工事の指名競争入札が、このような内容を持つています。そしてもちろん、これらのお金はすべて私達の「税金」なのです。

「地元業者育成」という美名のもと、これでは「談合」が日常化していると言われてもやむをえません。千葉県の本当の「主人公」は誰なのか? 誰の為の県行政、議会、県の公金なのか。

さて、我が習志野市では、どうなっているのでしょうか。

南房総市富浦町のトンネル工事請負

予定価格 969,486千円
でも実際は 契約金額 533,190千円

治安の回復と「まちづくり」のために

安心・安全な

「まちづくり」のために

年度	総員数
H13	375
H14	290
H15	260
H16	240
H17	240
H18	210
H19	230
計	1,845

参考資料 (平成18年度)

- 刑法犯認知件数 全国3位
- 重要犯罪認知件数 全国6位
- 重要窃盗犯認知件数 全国1位
- 110番受理件数 全国4位

森田が議員になった次の年から、県は厳しい予算の中で、警察職員の増員をすでに進めておられます。

しかし、同時に退職する職員も増えてきており、この数字がそのまま「増」になるものではありません。

例えば平成19年度では、全国で5番目に多くの増員ですが、退職者と差し引き計算するとたったの7名増です。

モラルの向上と安心、安全な町づくりこそ最良の低コスト

忘れてならないのは、これらは全て私達の税金でまかなわれることです。

一基約500万円もするスーパー防犯灯(サイレン・監視カメラ付きなどを装置)を10基ほど設置してきましたが、その維持・管理には毎年私達の税金がずつと使われていくということです。

ですから、警察職員の増員・スーパー防犯灯の設置など、やむを得ない社会情勢とはいえ、手放しで喜んではいられないのです。

ふかんど通信

発行 水と緑の会
森田 三郎
〒275-0016
習志野市津田沼7-1-10
電話・FAX:047-454-5335

楽園の子供達

42 絵と文

森田 三郎

あれ、かあちゃん 死んでねえじゃねえか

弟の四郎が、まだ子供だった頃
に言った言葉。

貧乏なおれんちには、おやつや
お菓子はなかった。

四人兄弟のこづかいは一円か
ら五円だった。それをかあちゃん
はいつも、古びたガマ口をあけて、
おれたちこづかいをくれていた。
一学年ごとに、一円ずつ足してく
れた。

かあちゃんのガマ口が、なんだ
か“魔法”みてえかったっけ。

こづかいは、一日に一回しかく
れなかった。それでも、紙芝居な
んかが来て、水アメなんかを買っ
てしまったら、それで終わり。

紙芝居だって、一円か二円でも、
何かを買わねえと、近くで見せて
もらえなかった。

んだから、お金がなくて何も買
えない時は、ちよっと遠く離れた
所から、電信柱や塀の影からそっ

と、物欲しそうに見ていた。

でも当時、そういうのはおれた
ち兄弟だけじゃなくて、そうい
う子供はいっぱいいて、おれんち
や、みんなもそうだった。

おれたち兄弟も、二回目のこづ
かいかあちゃんにねだったこと
もあつた。ダメだとわかつても
「もしかして、かあちゃんくれん
かもしんねえ」と思つて。そん
と
かあちゃん、「さつきやつたば
つかじゃねえか。そんなにかあち
ちゃんを困らしてえか。」とおこ
られた。

弟の四郎もおんなじ。そういう子
供はそんなころ、ええーべいた。
それがふつう。

ある日、かあちゃんがガマ口を
あけて、こづかいを四郎にやつた。
四郎はガマ口の中を見て、「かあ
ちゃん、お金、えつべもつてんだ」
と言つた。かあちゃんは四郎に、
「かあちゃんが死んだら、これみ
んな、四郎にあげんかんなん」と
言つた。

新聞配達をしていたかあちゃん
は、昼寝をすんだめに横になった。
それから四郎は外へ遊びに行つ
た。ひとしきりしてから家に帰つ
て、つくろい物をしているかあち
ちゃんを、縁側からはいつくばるよ
やうに見た。

へちまの棚の下から、まじまじ
とかあちゃんを見ながら、んで四
郎は言つた。

「あれえ、かあちゃん、まだ死ん
でねえじゃねえかあ」と。

それは四郎がまだ、やっと小学
校に上がったばかりの頃だった。

それはなんも四郎だけの思いで
なく、当時、小学校に上がる前の
子供から六年生ぐらまで、みん
なしていつしよに遊んでいた貧し
い頃の、子供達の多くがみんなも
もつていたと思う――。

そんな頃、みやんち(宮の内)は
夏の日中、おれんちのまわりはみ
んなゴロゴロ昼寝してた。戸も障
子も何もかもみんなあけっ放し。



んだから、どこのうちも、家
中みんな丸見え。知っているおじ
さんおばさん、子供達もみんない
つせいにゴロゴロ。
おれはあっちもこっちも、ええ
べ見てまわつて、遊べねえからつ
まんなかった。
しいーんとしたみやんちの真夏
の昼。草や木や土の匂いがぶんぶ
んすん中で、チョウやセミやトン
ボたちが元気だった。

上田 弘 哀 さん

墓 守



みやんち(宮の内)の東光寺

写真：森田三郎

今は船橋市宮本五丁目。写真は、東西に長い墓場の真ん中にあり、辺
りより小高くなっている。
ここだけは墓石がなくて、お堂を囲むようにこんもりと木が茂つてい
る。

縄文時代の貝塚にもなっていて、さらさらした砂地の平らなところも、
斜面にも無数の白い貝殻が出てくる。

縄文人や、その後のアイヌの人達が、イノシシやシカを追って狩りを
していた頃は、このすぐ下の所まで、遠浅の海の波がひたひたと寄せて
いたのだ。

砂は、その昔、東京湾から波と風で吹き上げられたものである。砂の
小高い丘は、ここから東の方、花輪・谷津五丁目と丹生神社・向山へと、
地質も地形も、その成り立ちも同じだ。向山の墓場も貝塚だ。

東光寺の墓場は、私のふるさと。子ども時代の遊び場、昆虫採集のメ
ッパでもあつた。どこにどんな木があり、枝や幹がどうなっているか、
どんな虫がどのようにいるかなど、ちゃんと知っていた。

木々の一本一本に、子供の頃の私の、五体と五感が染み込んでいるの
だ。高い木に登れば、正面に「離れ小島」、競馬場の松林、そしてその
向こうに「ふかんど」(昔の谷津干潟の呼称)が見えた。

勇渾な入道雲の下に、房総半島の山並みがうっすらと見え、光る海の
上には帆かけ船がうかんでいた。

墓場は、チョウ、トンボ、セミ、ハチ、バッタなどの生きものがいつ
ぱいいいた。ハチの巣なんかやたらとあつた。へびの脱け殻も農家の納屋
や木立で風にゆれていた。

何よりも、子供達は、草や木や土といっしょに、その季節を生ききてい
た。

六年ほど前、ここで、墓守をしている上田弘哀さんと知り合った。
当時八十九才。名前の「弘」は上田さんが敬愛している弘法大師からと
つたと言つた。よく「お大師様ーお大師様ー」と言つていた。早くに
奥さんを亡くしたという。

四国八十八所巡りもしている。野宿の連続で、納骨堂にも寝たと
言つた。
「朝の五時に墓場に一人来ると怖くないですか」と聞いたたら、「何を言
う。こんなにいっぱいのご先祖さんが、あたしを守っているんじゃない
か」と。

私は、黙って、聞いていた。
夏の墓場の榎には、昨年も、タマムシとコマダラチョウがとんでいた。
それを見ると、うれしさと懐かしさと、力がこみ上げてくる。

平成18年12月21日現在

千葉県議会議員 森田三郎 生年月日 昭和20年7月7日
住所 〒275-0026 千葉県習志野市谷津3-29-11-102 (税区分 甲O)

支払月日	件名	支払額	所得税	社会保険料 (議員年金掛金)
H18.1.20	1月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.2.21	2月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.3.20	3月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.4.21	4月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.5.19	5月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.6.21	6月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.6.30	6月 期末手当	2,244,000	439,824	44,880
H18.7.21	7月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.8.21	8月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.9.21	9月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.10.20	10月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.11.21	11月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
H18.12.8	12月 期末手当	2,455,200	481,220	49,100
H18.12.21	12月分 議員報酬	827,200	73,620	74,400
合計		14,625,600	1,879,600	986,780

これが森田三郎の一年間の収入です。

県議会から

千葉県議会議員 森田三郎



なんで公開できない! 政務調査費 どうして出すの費用弁償

政務調査費

議員の調査研究の為に交付される費用

個人分 35万円
会派分 5万円
計 40万円(月)
年間 480万円

費用弁償

議会会期中、千葉市内に住む県議は1日当たり12,200円、その他の県議は14,600円が出席日数に応じて会期ごとに支給される。

従来は休会日も含めて支給されていたが、平成16年の会派代表者会議で財政難を理由に、平成17年4月1日より会議に出席しない日は支給しないこととした。その他、行政視察の場合、国内では旅行雑費、宿泊料、食卓料が支給される。

国外(凍結中)では日当、宿泊料、夜の食卓料、支度料、旅行雑費が出る。なお、私は会派代表者会議において、日当は廃止し、交通費実費を支給すればよいと提案したが、棚ざらしのままである。

さて、今問題なのは次の二点です。

1. 費用弁償の支給
2. 政務調査で使用した費用の領収書の添付とその公開

政務調査費の交付に関する条例は平成13年に制定され、その用途基準は規定で定められている。

議員は収支報告書に領収書を添付し、出納簿等とともに議長に提出する。それを事務局職員が照合し、議長は収支報告書の写しを知事へ送付する。

しかし、県民から情報公開請求があった時、公開されるのは収支報告書のみであり、領収書は公開されない。それは条例で領収書の添付を義務づけていないからである。

そのため、情報公開を進めるには、領収書の添付を義務づけるよう条例の見直しを求めてきたものの、圧倒的少数ゆえ、自民党、民主党の反対で実現できないのが今の県議会である。



そんな時市民から下記のような
「反対」の
「公開しろ」の
「費用弁償の支給の廃止と政務調査費の領収書を含めた公開について、必要な措置をお願いする請願書」

議員に対する費用弁償の支給の廃止と政務調査費の領収書を含めた公開について、必要な措置をお願いする請願書

【請願項目】

1. 県議会議員が本会議に出席すると支払われる「費用弁償」は早急に切りやめるよう制度を改めてください。
2. 県議会議員及び会派に支給されている「政務調査費」の用途については、領収書も含めて県民公開するようにしてください。

自民党と民主党が反対!

なんと民主党が「大旋回」して、本会議でこの請願に賛成したのです。2月27日の議会運営委員会では反対だったのに。

なぜ、どうしてという疑問にある議員、「お家芸」とか。選挙直前を意識してのヘンシーンですか。で、選挙終わったら、また、ヘンシーンですか。オー、インガシイ!

採決の結果

会派名	H18.6月議会	H18.12月議会	H19.2月議会
水と緑の会	○	○	○
市民ネット・無所属の会	○	○	○
社民・県民連合	○	○	○
共産党	○	○	○
公明党	○	△	×
民主党	×	×	○
自民党	×	×	×
無所属			×

○賛成 ×反対 △継続審議 賛成

ボランティア募集・事務所開きのご案内

日時 3月28日(水) 午後1時

森田三郎は千葉県議会議員選挙で、中村ようこも習志野市議会議員選挙で、それぞれ三期目に挑戦します。選挙事務所は、今の「水と緑の会」の事務所です。手づくり選挙で戦います。

ポスター貼り、ウグイス、電話番号、車の運転など、何でも結構です。

「できる人が、できることを、できる時に」それがモットーです。

一人でも多くの方の参加とご協力、ご支援をお願い致します。また、近くにいられたとき、何かのついでの時、ちょっと立ち寄って下さるだけでも大変うれしいです。

住所 習志野市津田沼7-1-10 大野ビル2階
電話・FAX 047(454)5335

●京成津田沼駅から袖ヶ浦団地方面へ徒歩8分 袖ヶ浦団地入口バス停から徒歩1分半位 セントラル動物病院の隣 パブスナック「ロマン」の上

森田三郎・中村ようこ

食品の安全と安心をめざして

「衣食同源」・「身土不二」・「地産地消」

【安全と安心は「最大の資源」です】

生産者も販売・流通業者も、そして情報の公開と共有、相互理解と信頼なくして前進なし

の理想を掲げて

今まで、業界行政というものはありましたが、「消費者行政」はあまりに遅々たるものでした。しかしここ数年、食品の安全と安心の関心や重要性の声が高まり、国の方でも「食品安全委員会」の設置や「消費者基本法」の改正もなされました。

強く求められているのは消費者の権利と自立・自衛です。こういう流れを受けて、私は県議会で、食品の安全と安心を議員活動の柱の一つにしました。その結果、平成16年9月1日「千葉県食品表示ウオッチャー制度」が導入されました。全県で50名。

製造元や販売者・賞味期限や材料など、JAS法によって食品表示が適正に行われているかをチェックするものです。

私が県議になつてから、県の食品の安全と安心のための働きは次の通りです。

- 平成14年 「ちばエコ農産物」認証制度開始
- 平成15年 健康福祉部に「食品安全対策室」
- 平成16年 農林水産部に「食の安全推進室」を設置
- 「千葉ブランド」の確立をめざす
- トレーサビリティの試験的推進
- 「千葉県食品の安全対策会議」と「千葉県食品安全・安心協議会」の設置
- 平成18年 「千葉県食品等の安全・安心の確保に関する条例」の制定



(仮称) 「習志野食品表示ウオッチャー」を作りませんか!

食品に関する市民のつばやき、ささやき、疑問や希望を行政、企業に反映させていきませんか。そして、食品の安全と安心を、みんなで確かなものにしていきましょう。

連絡は「水と緑の会」まで